

W I L C O M M

スプール・ファイルの csv 配信

CSV001 (Last Update : 2002/11/29)

WilComm AS400 V7.15

© Copyright 2000

K.I.S.S. Inc.



本解説書は、「Forms Designer」「Field Mapper」「Distribution Wizard」「Wilcomm Config」の操作に慣れていることを前提としています。詳細な操作方法については、それぞれの解説書を参考にしてください。

目 次

1 . スプール・ファイルを CSV ファイルにするための前提条件	3 頁
2 . スプール・ファイルの CSV 配信 処理の概要	6 頁
3 . 制 限 事 項	8 頁
4 . 事 前 準 備	
1 WindowsNT Generic/Text Only Japanese プリントドライバ のインストール	9 頁
2 WindowsNT Generic/Text Only Japanese プリントドライバ のレジストリ修正	11 頁
3 Windows2000 Generic/Text Only プリントドライバ のインストール	17 頁
4 Windows2000 Generic/Text Only プリントドライバ のレジストリ修正	25 頁
5 WilcommConfig でピックアップ・グループを追加	31 頁
5 . フォーム作成	37 頁
6 . フィールドマップ定義の作成	48 頁
7 . 「Distributu Wizard」: W i l P r i n t 用セクションの作成	52 頁
8 . 「Distributu Wizard」: 配信用セクションの作成	55 頁
9 . 動作確認	62 頁
10 . メール添付される CSV ファイル名称について	63 頁
11 . 補足	66 頁

1. スプール・ファイルを CSV ファイルにするための前提条件

スプール・ファイルを CSV ファイルにするためには、以下のようにスプールの印刷イメージが、各項目別に表形式の列に対応できるように設計されていることが必要です。

以下のように設計されたスプール・ファイルの CSV 化を考えてみましょう。

1	1				PAGE: 0
		01 10 9			148316
105-0013	105-0013				01 9 9
東京都港区浜松町 1-11-7	東京都港区浜松町 1-11-7				
ノープル第一ビル 4F	ノープル第一ビル 4F				
株式会社 K. I. S. S.	株式会社 K. I. S. S.				
高塚 司朗	高塚 司朗				
03-5408-7683					
FAX0015521.C0L.JP	管理 NO. 986882				
1 FAX01	ウィル F AX キット	1セット	1 EA	3,000	3,000
585175285					
1 #S001	ウィルコム A S システム	1セット	1 EA	200	200
585175285					
1 PC001	ウィルコム P O システム	1セット	2 EA	6,000	12,000
585175285					
1 SUPPORT	導入サポート	1セット	1 EA	200	200
CONSUL-#SC					
1 ADOBE ACROBAT	ADOBE ACROBAT V4.0	1セット	1 EA	3,600	3,600
#OB-ACROV40					
1 WILFORM	デザインソフトウェア	1セット	2 EA	95,000	190,000
1-45#028L					
					208,000
					16,450
					219,450

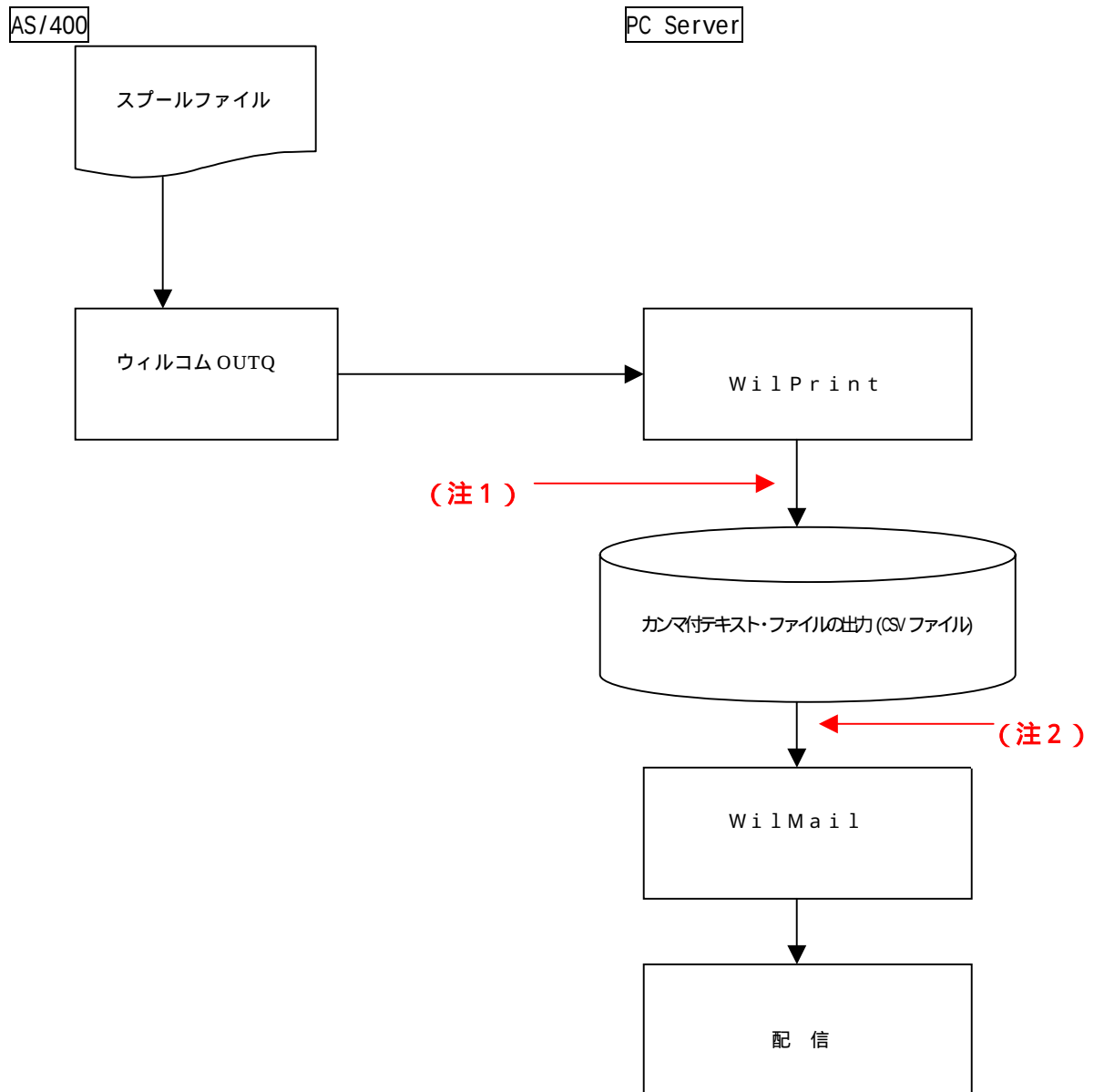
このようなスプール・ファイルの場合、CSV 化できるのは以下の赤枠の範囲となります。

1	1				PAGE: 0
		01 10 9			148316
					01 9 9
105-0013	105-0013				
東京都港区浜松町 1-11-7	東京都港区浜松町 1-11-7				
ノーブル第一ビル 4F	ノーブル第一ビル 4F				
株式会社 K. I. S. S.	株式会社 K. I. S. S.				
高塚 司朗	高塚 司朗				
03-5408-7683					
FAX@KISS21.CO.JP	管理 NO. 986882				
1 FAX01	ウィル FAX キット	1 台	1 EA	3,000	3,000
585175285					
1 AS001	ウィルコム AS システム	1 台	1 EA	200	200
585175285					
1 PC001	ウィルコム P システム	1 台	2 EA	6,000	12,000
585175285					
1 SUPPORT	導入サポート	1 台	1 EA	200	200
CONSUL-RSC					
1 ADOBE ACROBAT	ADOBE ACROBAT V4.0	1 台	1 EA	3,600	3,600
ADB-ACROV40					
1 WILFORM	デザインソフトウェア	1 台	2 EA	95,000	190,000
1-454028L					
					208,000
					10,450
					219,450

以下のように、色枠で示した各縦列の項目を表形式(CSV)の列に対応させることになります。

1		1	01 10 3		PAGE: 0
105-0013		105-0013	1		143316
東京都港区浜松町 1-11-7		東京都港区浜松町 1-11-7			01 9 9
ノーブル第一ビル 4F		ノーブル第一ビル 4F			
株式会社K. I. S. S.		株式会社K. I. S. S.			
高塚 司朗		高塚 司朗			
03-5408-7633		管理 NO. 986882			
FAX01		ウィルコムAシステム	1 EA		3,000
585175285		ウィルコムASシステム	1 EA		200
585001		ウィルコムPシステム	2 EA		6,000
585175285		導入サポート	1 EA		200
PC001		ADOBE ACROBAT V4.0	1 EA		3,600
585175285		デザインソフトウェア	2 EA		95,000
SUPPORT					
CONSUL-88C					
ADOBE ACROBAT					
ADOB-ACROV40					
WILFORM					
1-454028L					
					208,000
					16,450
					219,450

2. スプール・ファイルの CSV 配信処理の概要



- (注1) WilPrintで「カンマ付テキスト・ファイル」(以下 CSV ファイル)を出力するための「フォーム」「フィールドマップ定義」及び「Distribution Wizard のセクション」作成が必要。この場合、CSV ファイルを出力するためにプリンタ・ドライバ「Generic / Text Only」を使用。
- (注2) PC Server 上に出力した CSV ファイルを再度ピックアップする「ピックアップ・グループ」定義が必要。更に、再ピックアップした CSV ファイルを配信するための「Distribution Wizard のセクション」作成が必要。

(注1)の解説

「フォーム作成」

Forms Designer に用意されている「CSV Master.f3t」をベースにしてフォームを作成します。このフォームにはスプールとマージすると、CSV ファイルを出力するマクロが組み込まれています。「CSV Master.f3t」をリネームして新規フォームを作成します。

「フィールドマップ定義」

「CSV Master.f3t」をベースに作成したフォームとスプール・ファイルとのマッピング定義を作成します。

フォームには列単位の変数フィールドが用意されていますので、スプールの各縦列の項目をフォームのフィールドに割当てます。

「Distribution Wizard のセクション」作成

配信方法で「印刷」を選択して、「事前定義プリンター名」で「Generic / Text Only」を選択します。

「Generic / Text Only」プリンタ・ドライバの事前インストール

WindowsNT の場合、OS の CDROM を使用して「Generic / Text Only Japanese」をインストールしておきます。(後述)

Windows2000 の場合、OS の CDROM を使用して「Generic / Text Only」をインストールしておきます。(後述)

(注2)の解説

「ピックアップ・グループ」

「Wilcomm Config」のピックアップ・グループ定義には、AS/400 のネットワークドライブからスプール・ファイルをピックアップする定義は既に存在するはずです。

ここでのピックアップ・グループは、W i l P r i n t で出力された PC Server 内の CSV ファイルを、配信するためにもう一度ピックアップするためのものです。

「Distribution Wizard のセクション」作成

再ピックアップされた CSV ファイルをメール配信するためのセクション作成します。

3 . 制限事項

1 . CSV ファイルになった際に、一行あたりの文字数が、

「実データのバイト数 + カンマの数 + ダブルコーテーションの数」 160

である必要があります。

ダブルコーテーションの数は「マッピングする実データのフィールド数 × 2」

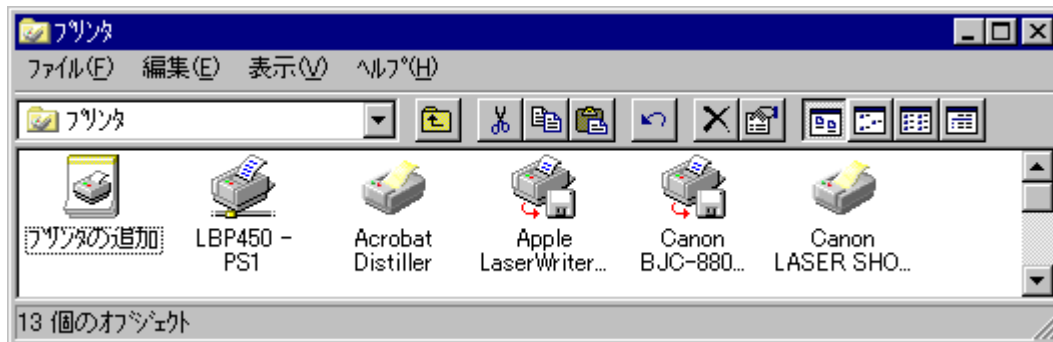
2 . **横列の数 26** である必要があります。

以上の制約を超える CSV のデータ配信を行うには、Wilcomm のオプション・ツール「CSV コンバージョン・ツール」をお勧めいたします。

4 . 事前準備

4 - 1 WindowsNT Generic / Text Only Japanese プリンタ・ドライバのインストール

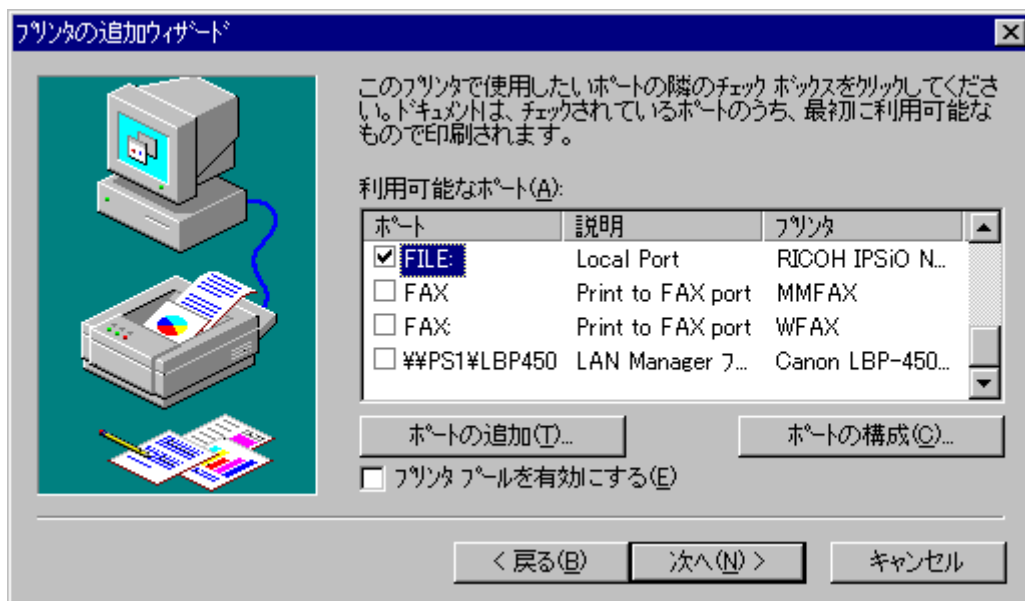
Windows2000 の場合は、17 ページに進んでください。



「プリンタの追加」をダブルクリックします。



「次へ」ボタンを押します。



ポートは「FILE」にチェックして「次へ」ボタンを押します。



製造元は「汎用」、プリンタは「Generic / Text Only Japanese」を選択して「次へ」ボタンを押します。

画面の指示に従ってインストール作業を完了させます。

4 - 2 WindowsNT Generic / Text Only Japanese プリンタ・ドライバのレジストリ修正

プリンタ・ドライバによるスプール出力は、WindowsNT が C ドライブにインストールされている場合、「c:\winnt\system32\spool\printers」フォルダとなります。

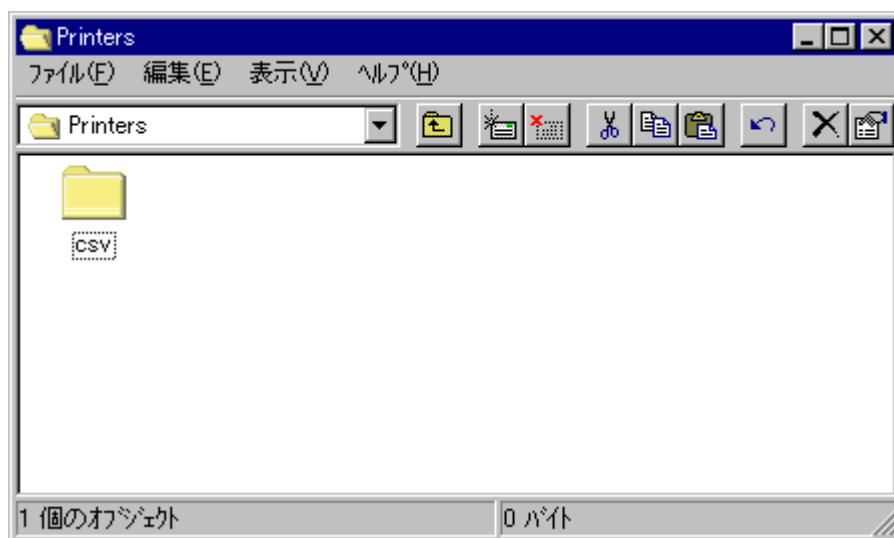
この出力先フォルダは WindowsNT にインストールされているすべてのプリンタが共通で使用するフォルダです。

「Generic / Text Only Japanese」もインストール時点では、このフォルダを使用することになります。しかし、「Generic / Text Only Japanese」によって出力される CSV ファイルは、Wilcomm Server によって再ピックアップして配信する必要があります。

「c:\winnt\system32\spool\printers」フォルダを再ピックアップ先として定義すると、他のプリンタが存在する場合にその分まで Wilcomm Server はピックアップしてしまいます。

その問題を解消するために、「c:\winnt\system32\spool\printers」の出力先フォルダを他のプリンタと区別する必要があります。

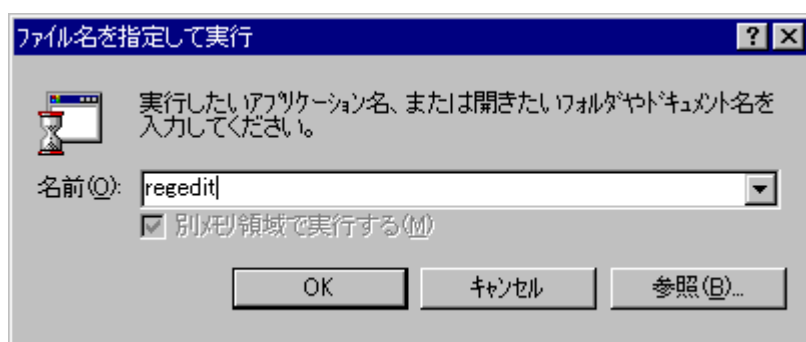
ここでは、その区別するためのフォルダを「c:\winnt\system32\spool\printers」の中に新たに「csv」というフォルダ名で作成し、設定する手順について述べています。



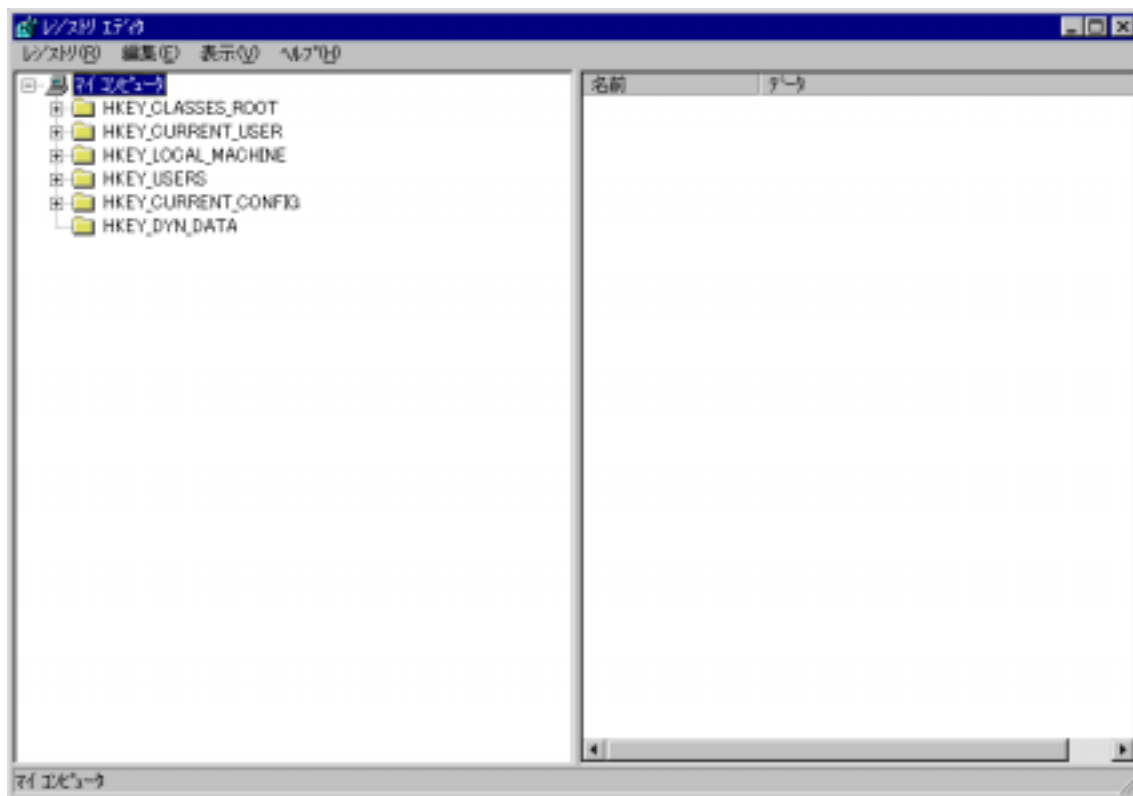
フォルダ : c:\winnt\system32\spool\printers 内に、フォルダ : CSV を作成してください。



「スタート」→「ファイル名を指定して実行」を選択します。

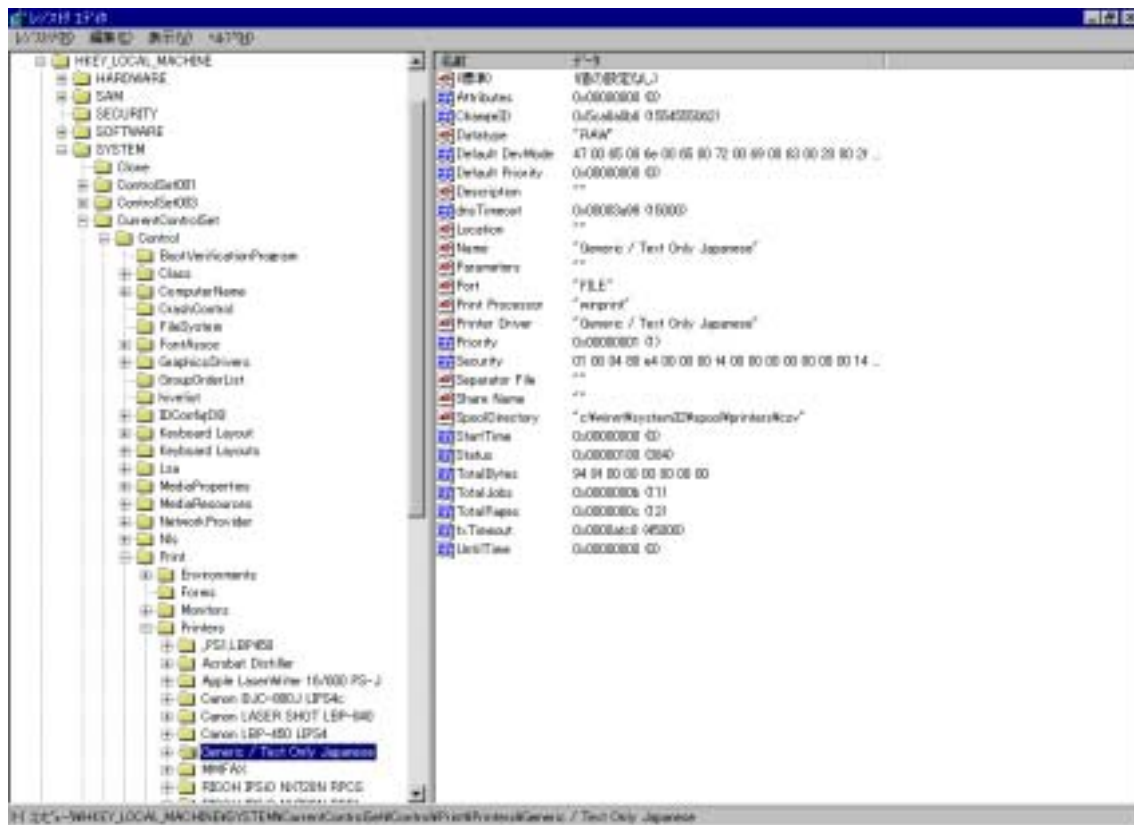


コマンド： regedit と入力して「OK」ボタンを押します。

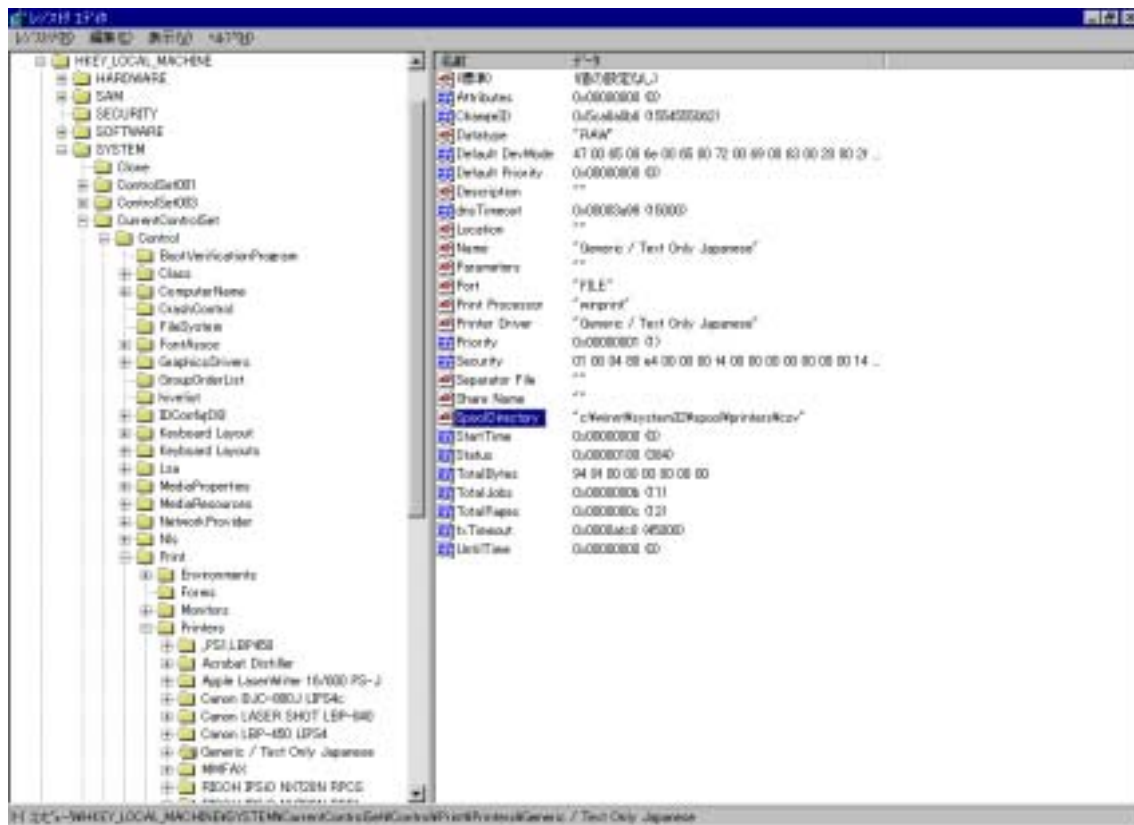


レジストリエディタが起動します。

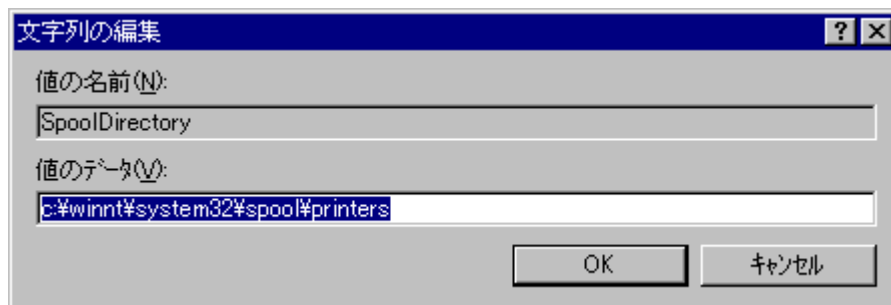
マウスでクリックしながら、「HKEY_LOCAL_MACHINE」→「SYSTEM」→「CurrentControlSet」→「Control」→「Print」→「Printers」→「Generic / Text Only Japanese」に到達してください。



「Generic / Text Only Japanese」を選択した状態にしてください。

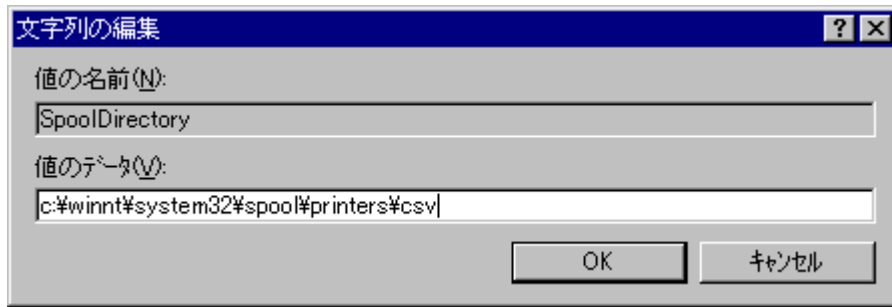


「Generic / Text Only Japanese」を選択した状態で、右側ウィンドウの「SpoolDirectory」をダブルクリックします。



作成したフォルダ： CSV を指定します。

「c:\winnt\system32\spool\printers\csv」



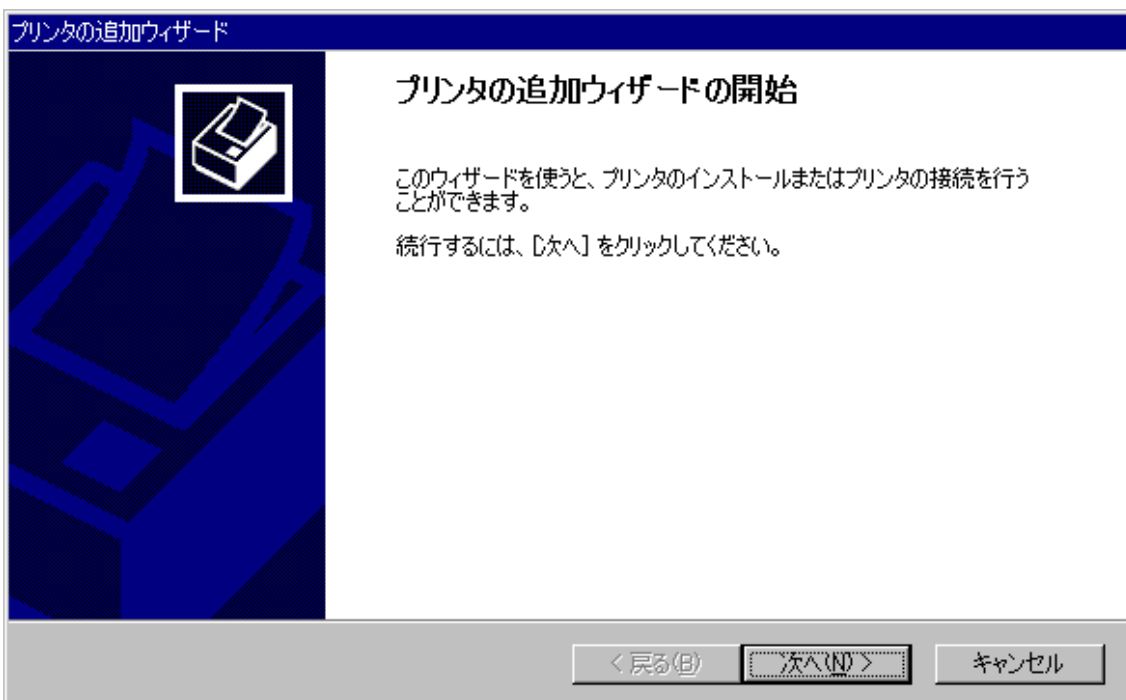
修正したら「OK」ボタンを押して、レジストリエディタを終了します。
WindowsNT を再起動してください。

ここまでの設定が終了しましたら、31ページに進んでください。

4 - 3 Windows2000 Generic / Text Only プリンタ・ドライバのインストール



「プリンタの追加」をダブルクリックします。



「次へ」ボタンを押します。

プリンタの追加ウィザード

ローカルまたはネットワーク プリンタ
プリンタはどのようにコンピュータに接続していますか?

プリンタが直接このコンピュータに接続されている場合は「ローカル プリンタ」を、別のコンピュータまたは直接ネットワークに接続されている場合は「ネットワーク プリンタ」をクリックしてください。

☒ ローカル プリンタ(L)
☐ プラグ アンド プレイ プリンタを自動的に検出してインストールする(A)
☐ ネットワーク プリンタ(E)

「ローカルプリンタ」にチェックして、「次へ」ボタンを押します。

プリンタの追加ウィザード

プリンタ ポートの選択
コンピュータはポートを通してプリンタと通信しています。

使用するプリンタ ポートを選択してください。ポートが一覧にない場合、新しいポートを追加してください。

☒ 次のポートを使用(U):

ポート	説明	プリンタ
FILE:	ファイルへ出力	
D:\Documents...	PDF Port	Acrobat Distiller
FAX	Print to FAX port	MMFAX
WFAX	Print to FAX port	WFAX
¥¥ps1¥lbp450	LAN Manager プリンタ ポ...	lbp450

注意: (ほとんどのコンピュータはローカル プリンタとの通信に LPT1: ポートを使います。

☐ 新しいポートの作成(C):
 種類: Fax Monitor Port

ポートは「FILE」を選択して「次へ」ボタンを押します。

プリンタの追加ウィザード

プリンタの追加ウィザード
製造元とモデルでどのプリンタを使うか決定します。



 プリンタの製造元とモデルを選択してください。プリンタにインストール ディスクが付属している場合は、[ディスク 使用] をクリックしてください。プリンタが一覧にない場合は、プリンタのマニュアルを参照して互換性のあるプリン タを選択してください。

製造元(M): プリンタ(P):

Generic	Generic / Text Only
Gestetner	Generic IBM Graphics 9pin
Hitachi	Generic IBM Graphics 9pin wide
Hitachi Koki	MS Publisher Color Printer
HP	MS Publisher Imagesetter
IBM	
Lexmark	

Windows Update(W) ディスク使用(H)...

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

製造元は「Generic」、プリンタは「Generic / Text Only」を選択して「次へ」ボタンを押 します。

プリンタの追加ウィザード

プリンタ名
このプリンタに名前を書り当ててください。



このプリンタの名前を指定してください。一部のプログラムでは、32 文字以上のサーバーとプリンタ名の 組み合わせはサポートされていません。

プリンタ名(P):

Generic / Text Only

Windows アプリケーションで、このプリンタを通常使うプリンタとして使いますか？

☐ はい(Y)

☒ いいえ(N)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

「Windows アプリケーションで、このプリンタを通常使うプリンタとして使いますか？」の チェックを「いいえ」にして、「次へ」ボタンを押します。

プリンタの追加ウィザード

プリンタ共有
このプリンタをほかのネットワーク ユーザーと共有できます。

このプリンタをほかのユーザーが利用できるかを指定します。このプリンタを共有するには共有名を指定する必要があります。

☒ このプリンタを共有しない(N)
☐ 共有する(S):

「次へ」ボタンを押します。

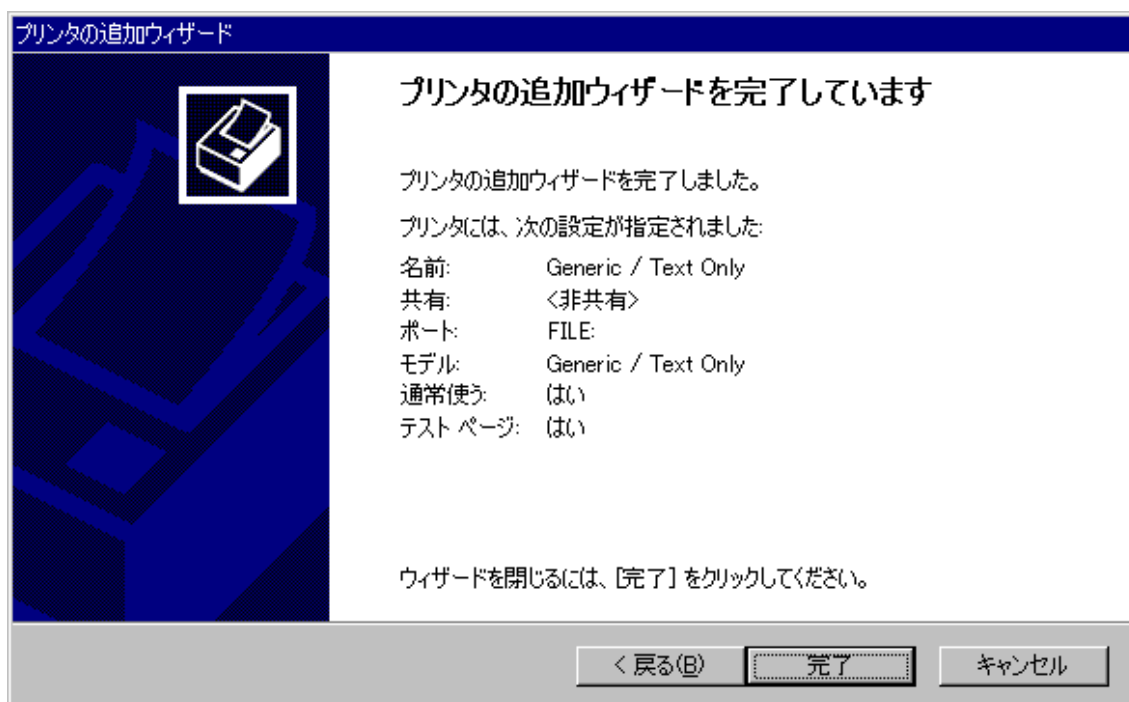
プリンタの追加ウィザード

テスト ページの印刷
テスト ページを印刷して、プリンタ セットアップを確認することができます。

テスト ページを印刷しますか？

☐ はい(Y)
☒ いいえ(N)

「テストページを印刷しますか？」のチェックを「いいえ」にして「次へ」ボタンを押します。



「完了」ボタンを押します。



Generic / Text Only プリンタが作成されたことを確認してください。

Generic / Text Only アイコンを右クリックして、「プロパティ」を選択します。



プロパティが表示されたら、「フォントの選択」タブをクリックします。



「コードページ」が「US (ANSI) (1252)」となっていますので、「**Japanese (932)**」に変更してください。



「適用」ボタンを押して、「OK」ボタンで終了してください。

4 - 4 Windows2000 Generic / Text Only プリンタ・ドライバのレジストリ修正

プリンタ・ドライバによるスプール出力は、Windows2000 が C ドライブにインストールされている場合、「c:\winnt\system32\spool\printers」フォルダとなります。

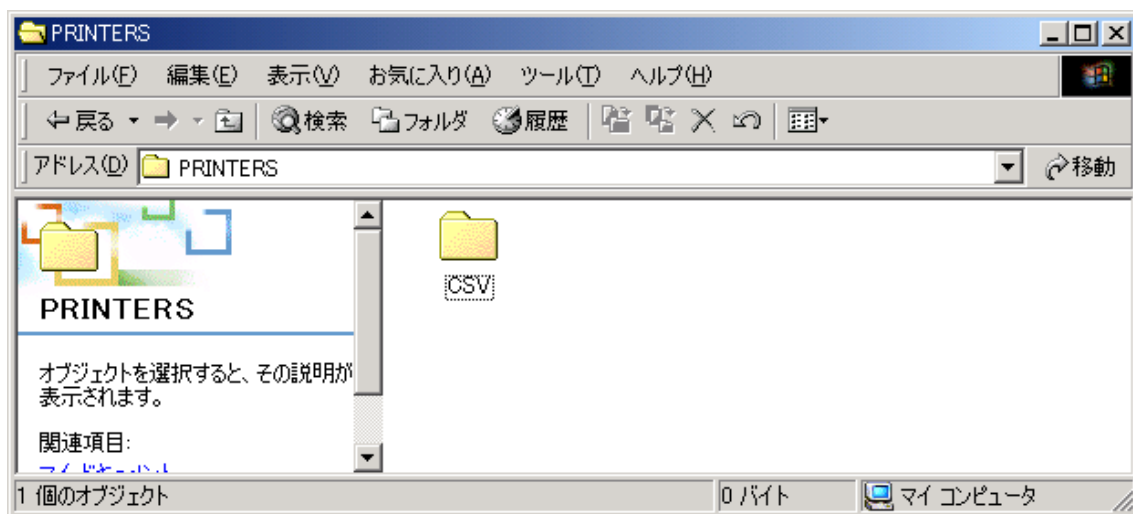
この出力先フォルダは Windows2000 にインストールされているすべてのプリンタが共通で使用するフォルダです。

「Generic / Text Only」もインストール時点では、このフォルダを使用することになります。しかし、「Generic / Text Only」によって出力される CSV ファイルは、Wilcomm Server によって再ピックアップして配信する必要があります。

「c:\winnt\system32\spool\printers」フォルダを再ピックアップ先として定義すると、他のプリンタが存在する場合にその分まで Wilcomm Server はピックアップしてしまいます。

その問題を解消するために、「c:\winnt\system32\spool\printers」の出力先フォルダを他のプリンタと区別する必要があります。

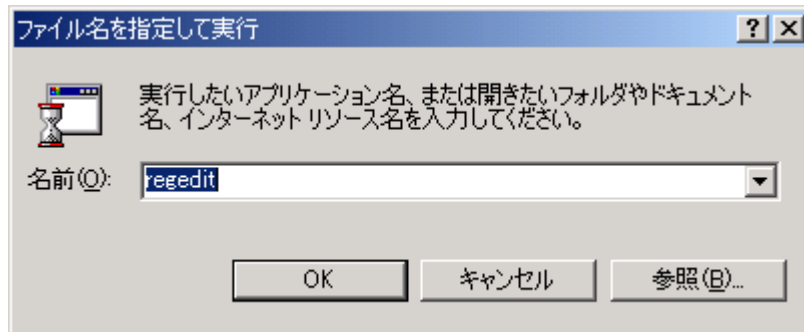
ここでは、その区別するためのフォルダを「c:\winnt\system32\spool\printers」の中に新たに「csv」というフォルダ名で作成し、設定する手順について述べています。



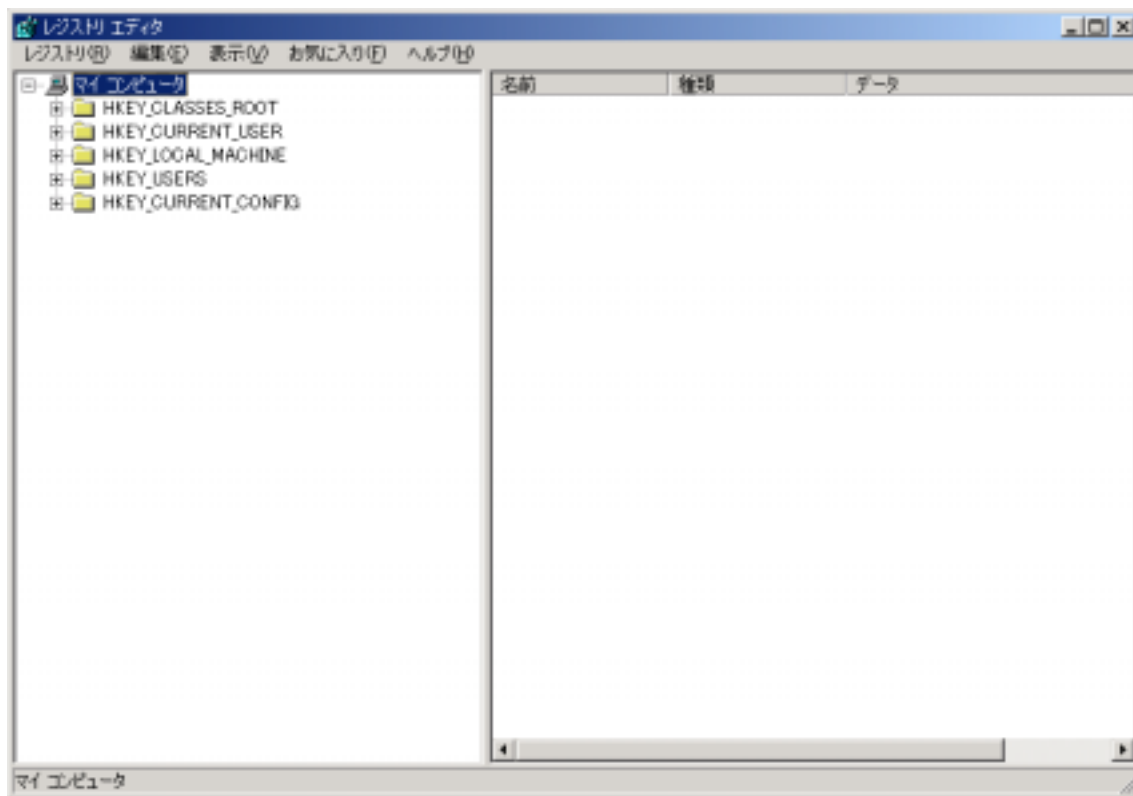
フォルダ : c:\winnt\system32\spool\printers 内に、フォルダ : CSV を作成してください。



「スタート」→「ファイル名を指定して実行」を選択します。

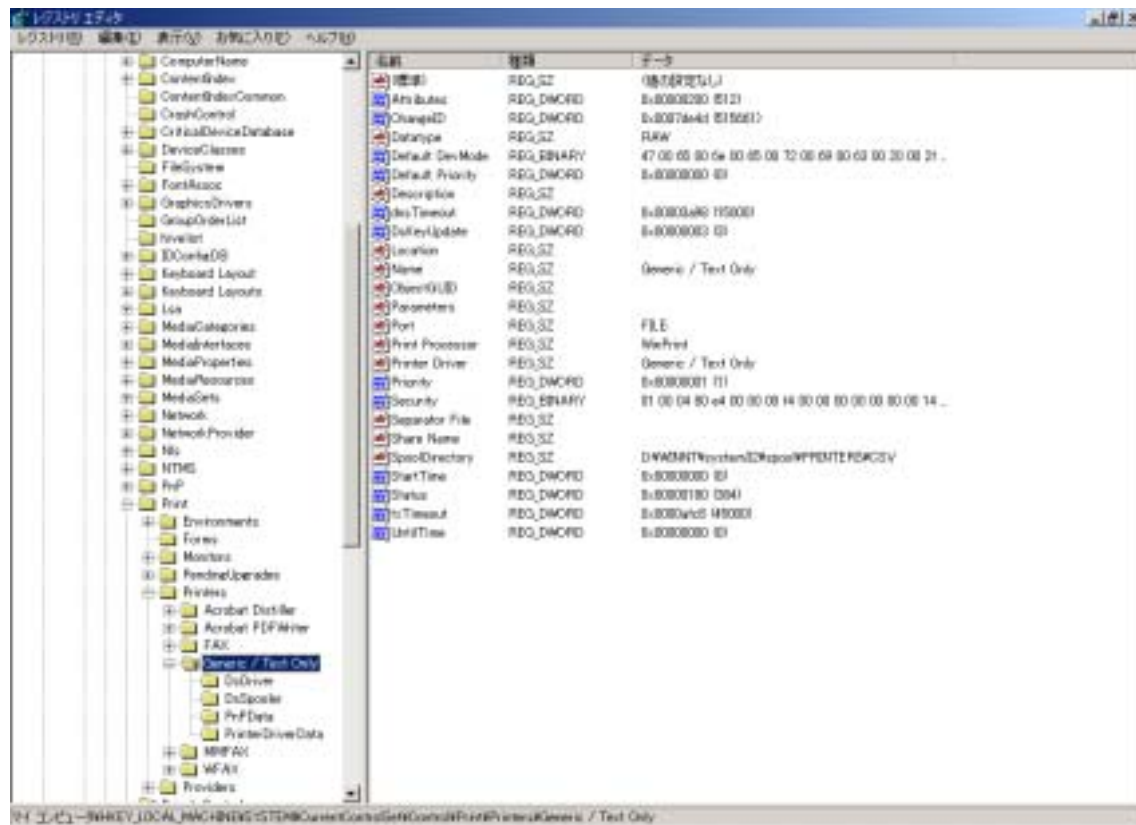


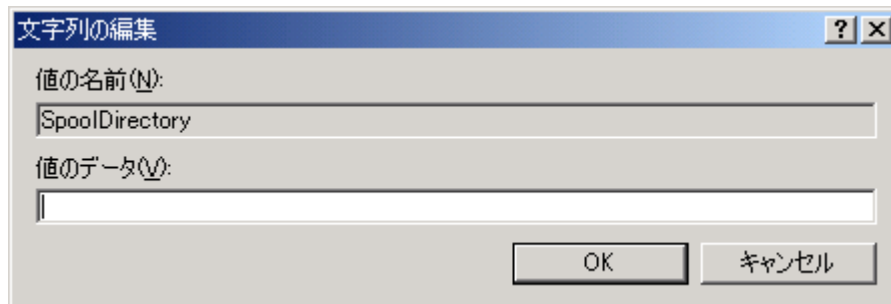
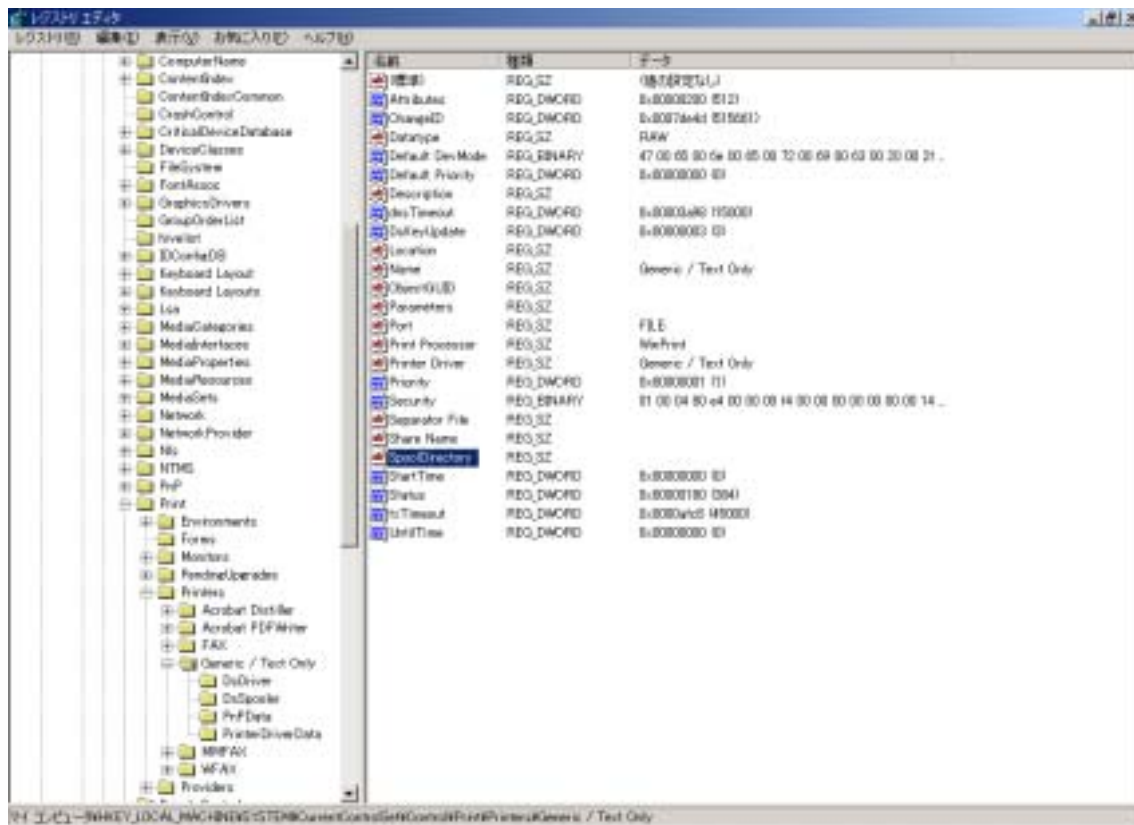
コマンド： regedit と入力して「OK」ボタンを押します。



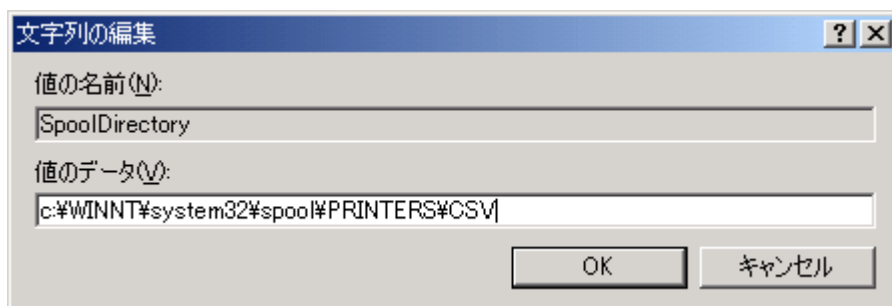
レジストリエディタが起動します。

マウスでクリックしながら、「HKEY_LOCAL_MACHINE」→「SYSTEM」→「CurrentControlSet」→「Control」→「Print」→「Printers」→「Generic / Text Only」に到達してください。





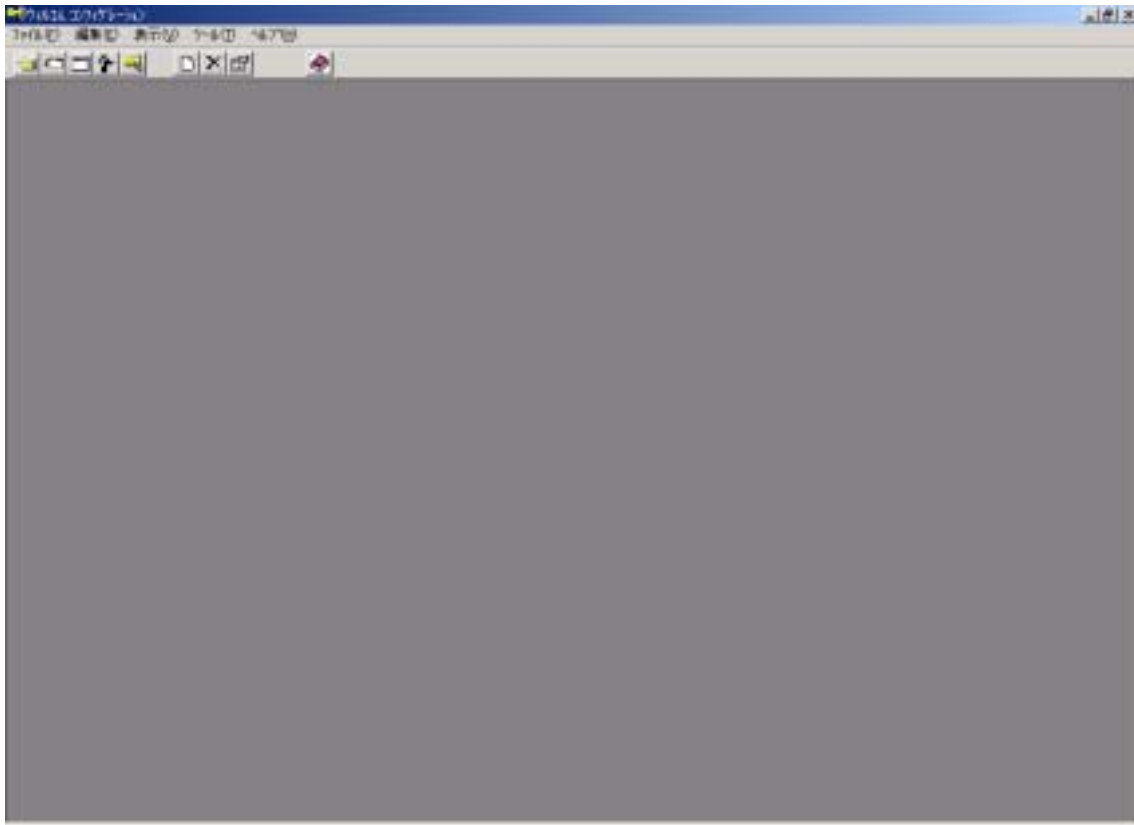
「c:¥winnt¥system32¥spool¥printers¥csv」



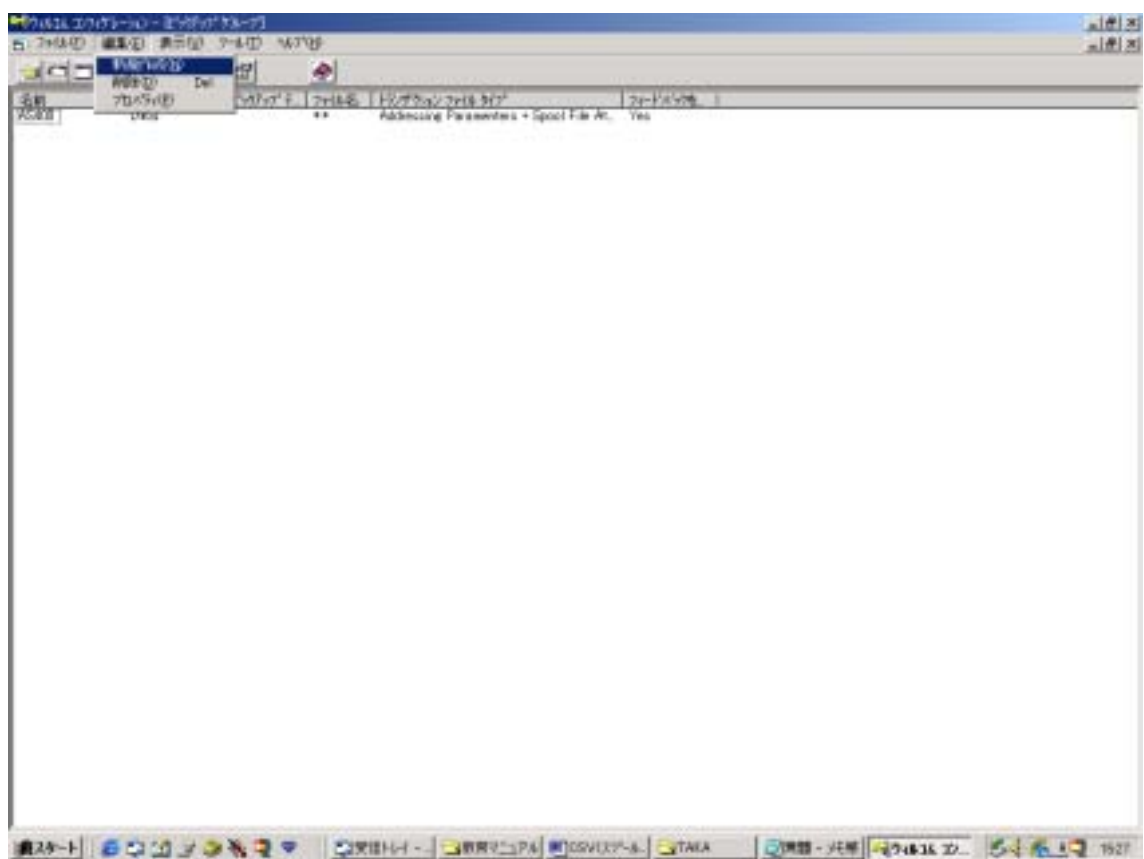
修正したら「OK」ボタンを押して、レジストリエディタを終了します。
Windows2000 を再起動してください。

4 - 5 Wilcomm Config でピックアップ・グループを追加

「スタート」→「プログラム」→「Wilcomm Universal」→「Wilcomm Config」を選択します。



ツールバーの「表示」→「ピックアップ・グループ」を選択します。



ツールバーの「編集」→「新規作成」を選択します。

新規ピックアップ・グループの追加

ピックアップ・グループ:

ファイルの取り出し

ピックアップ・ディレクトリ: ...

ファイル名:

ファイル形式: 詳細...

参照: 詳細...

ホストからメールに添付されるファイル

ピックアップ・ディレクトリ: ...

ホストへ送る実行結果

☐ 以下のディレクトリへ、実行結果のファイルを作成

ファイル拡張子: ...

ウィルコム サービス用 送信メールの通知

WilPrint: ☐ 失敗のみ ☐ すべて ☒ 無し	WilTelex: ☐ 失敗のみ ☐ すべて ☒ 無し
WilFax: ☐ 失敗のみ ☐ すべて ☒ 無し	WilComtext: ☐ 失敗のみ ☐ すべて ☒ 無し
WilMail: ☐ 失敗のみ ☐ すべて ☒ 無し	

メール通知用 メール アドレス

メール アドレスの解決方法: 詳細...

ローカル作業ディレクトリ:

OK キャンセル

ピックアップ・グループの新規設定画面が表示されます。

* 印の部分を設定してください。

*

ピックアップグループは、わかりやすい名称を入力します。

< ファイルの取り出し >

ピックアップディレクトリは、Generic / Text Only Japanese 或いは Generic / Text Only のレジストリ「SpoolDirectory」で指定したパスを入力します。

正確なパス名を入力するために、右側のボタンを押して「フォルダ参照」をすることができます。

ファイル形式は、「プレーンテキスト ファイル」を選択します。

ファイル名は「*.spl」と指定します。

Generic / Text Only Japanese 或いは Generic / Text Only が出力するファイルの拡張子が「spl」となるためです。

「参照」は、「ファイル名」を選択します。

ここでの指定は、実際に CSV ファイルが配信される際のファイル名称に影響してきます。

ここでのピックアップ・グループは、AS/400 のスプール・ファイルが CSV ファイルに変換されたファイルをピックアップしますので、AS/400 のスプール属性を使用することができません。よって、デフォルト値の「スプールファイル属性」は使用できません。

CSV ファイル名称の決定方法については、「10. メール添付される CSV ファイル名称について」を参照してください。

< ホストからメールに添付されるファイル >

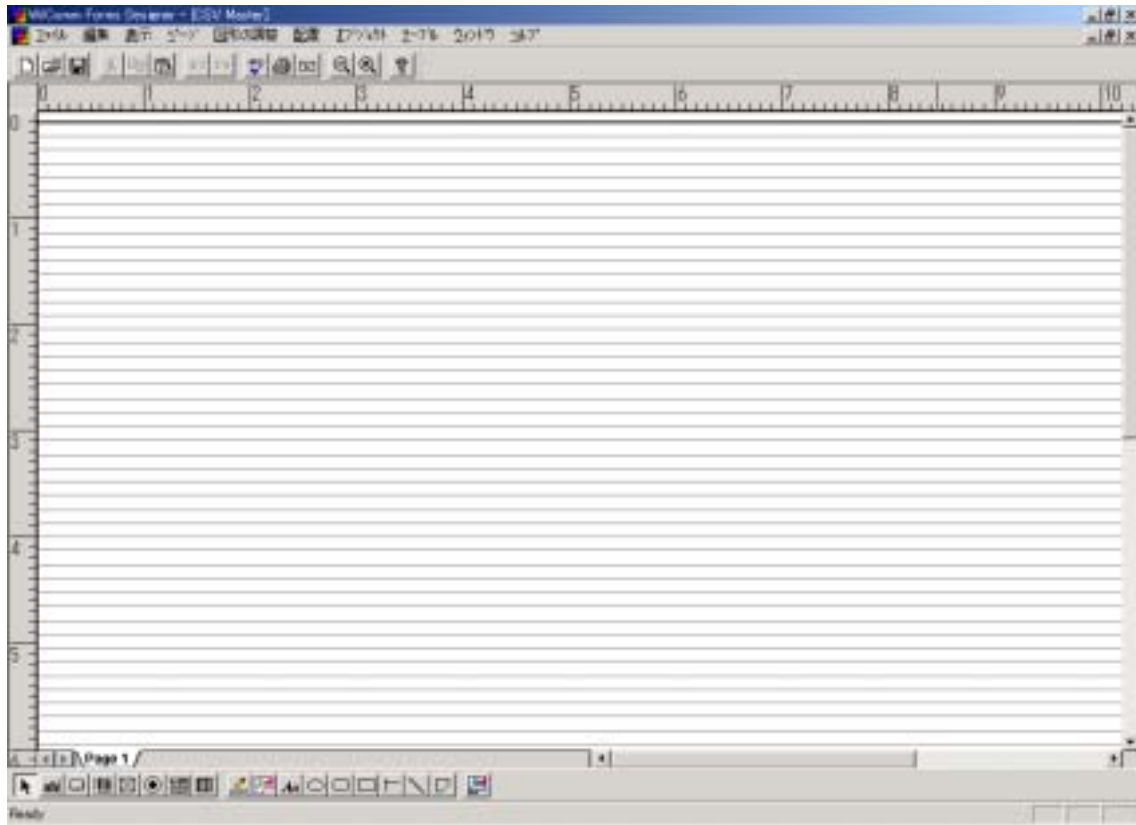
ピックアップディレクトリは、「C:¥TEMP」としてください。

この設定は特に意味がありません。入力チェックがあるために入力するもので、処理上は問題となりません。

以上を入力して「OK」ボタンを押します。

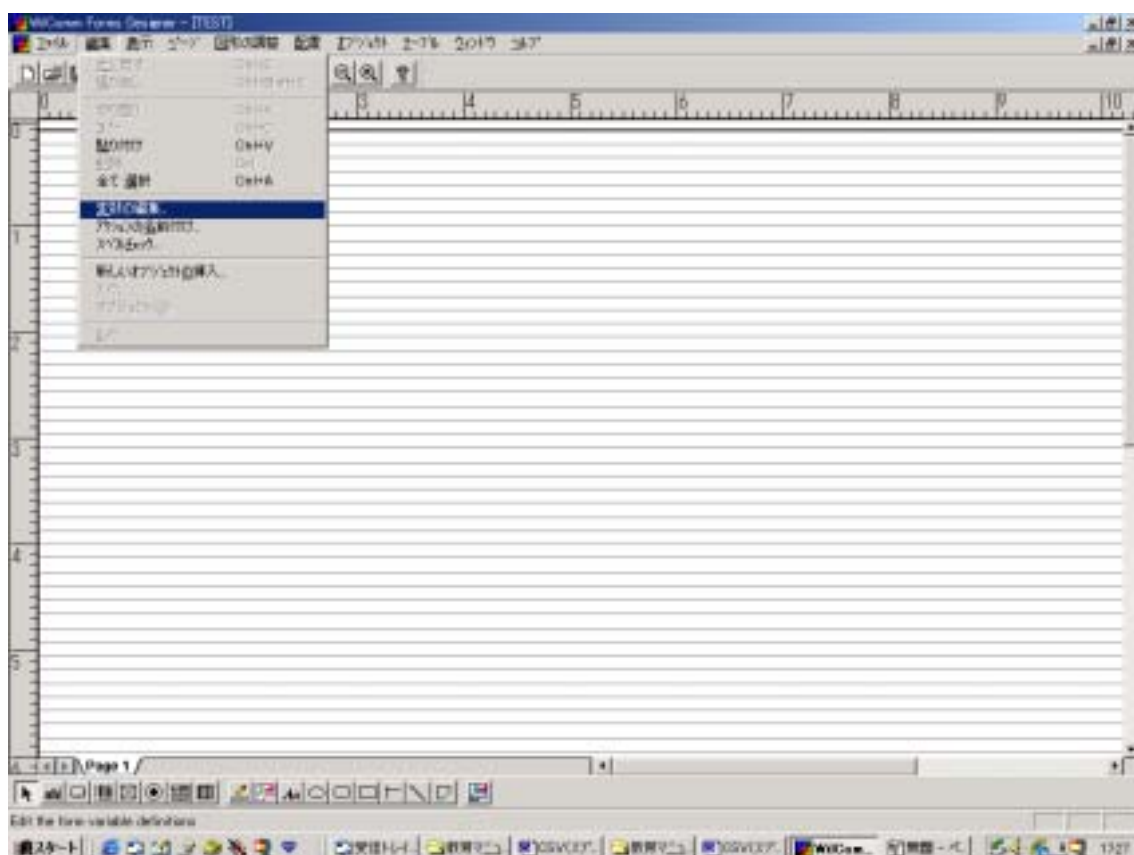
5. フォーム作成

Forms Designer を起動し、ファイル「CSV Master.f3t」を読み込みます。「CSV Master.f3t」にはスプールファイルを CSV ファイルに変換するためのマクロが組み込まれています。常にテンプレートとして使用しますので、先ず、ファイル名を適当な名前に変更・保存してから作業を行ってください。

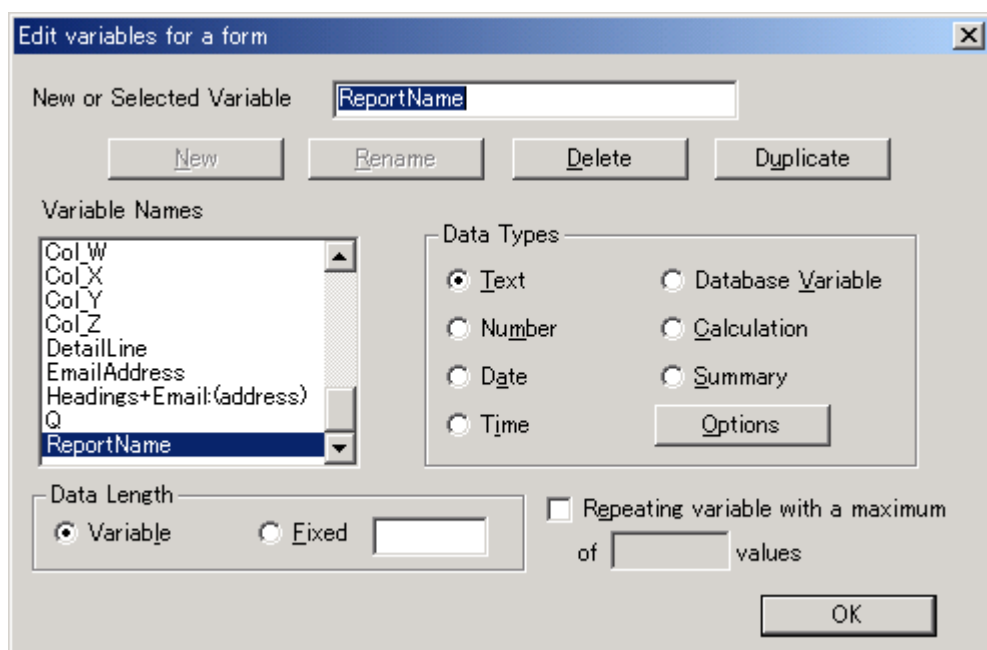


Forms Designer で「CSV Master.f3t」を開きます。

ツールバーの「ファイル」→「名前をつけて保存」を選択して、適当なファイル名で保存してから作業に入ってください。



ツールバーの「編集」→「変数の編集」を選択します。



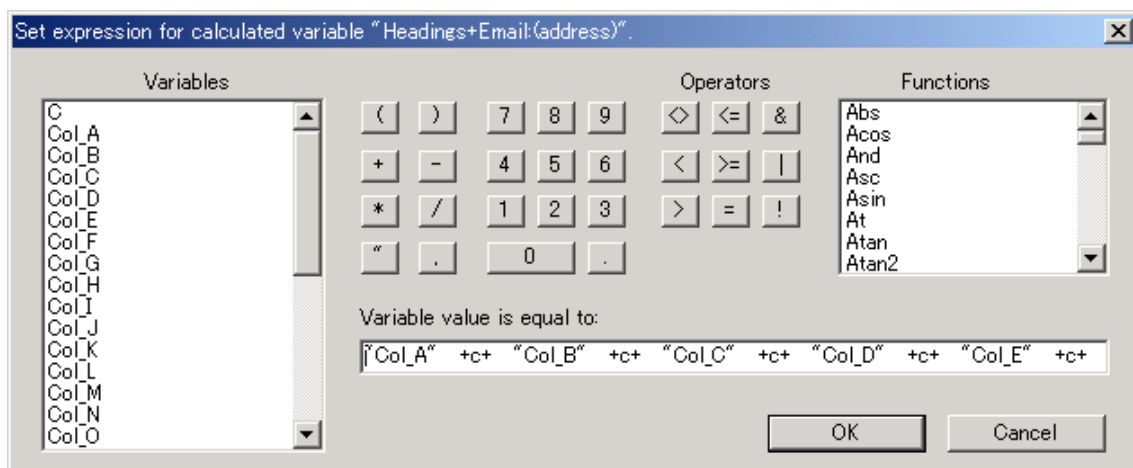
このフォーム内にある変数を編集するための画面が表示されます。

「Variable Names」ボックスに表示されているのが変数名称です。

「Col_A」～「Col_Z」がCSVの列となります。列数 26 の制約の所以です。

「Variable Names」ボックスから **Headings+Email:(address)** を選択し Options ボタンを押します。

Variable value is equal to : という欄に事前に定義されたマクロが表示されます。この状態で「Home キー」を押し、Col_A (カラム A) を表示させます。



「Home キー」を押すことで、Col_A (カラム A) にカーソル・ポイントが移動します。

() ヘダーの入力

” Col_A ” は、CSV ファイルになった際の列のヘダー名称になります。

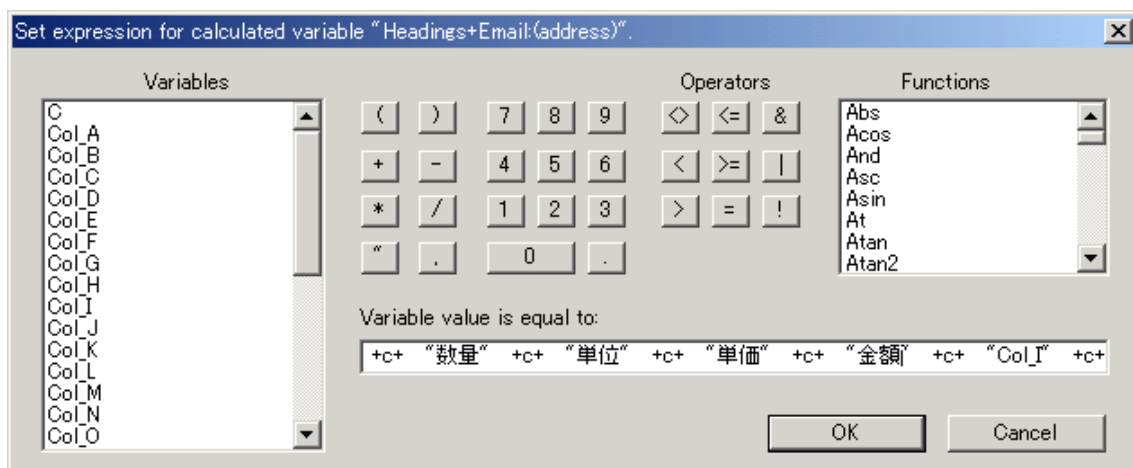
つまり、このままですと CSV ファイルの最左の列は「Col_A」という列名称がセットされます。(ここで入力した値はCSVファイルの1行目のレコードとして使用されます。)

例：” Col_A ” → “ 区分 ”、” Col_B ” → “ 品目番号 ”、” Col_C ” → “ 品目名称 ”・・・のように修正します。

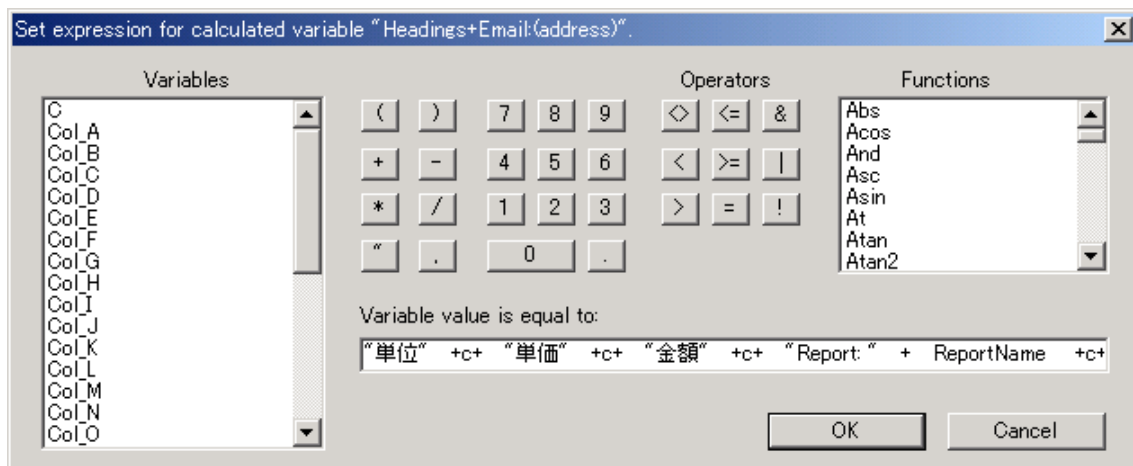
	A	B	C	D	E	F	G	H
1	区分	商品番号	品目名称	出荷単位	数量	単位	単価	金額
2		1 FAX01	ウィルFAXキット	1セット	1	EA	3,000	3,000
3			585175285					
4		1 AS001	ウィルコムASシステム	1セット	1	EA	200	200
5			585175285					
6		1 PC001	ウィルコムPCシステム	1セット	2	EA	6,000	12,000
7			585175285					
8		1 SUPPORT	導入サポート	1セット	1	EA	200	200

このような最終的な CSV ファイルをイメージして、ヘダー名称を修正します。

デフォルトのヘダーは Col_Z まで用意されています。ヘダーの上書き終了後、不要なデフォルトの列名称を削除します。Col_Z 以降に続く文字列は削除しないよう注意して下さい。
(次ページ参照)



この場合、"金額"以降の"Col_I" ~ "Col_Z"が不要であれば、削除してください。

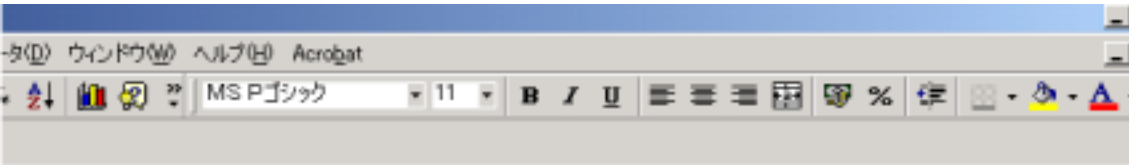


"Col_I" ~ "Col_Z"を削除すると、このようになります。

ここまでで、列のヘダーが確定しました。

() レポートタイトル・ヘダーの変更

「Variable value is equal to:」ボックス内の「"Report: " + ReportName」の部分が修正可能です。



E	F	G	H	I	J
	単位	単価	金額	Report	管理 NO.906882
1	EA	3,000	3,000		
1	EA	200	200		
2	EA	6,000	12,000		
1	EA	200	200		
1	EA	3,600	3,600		

“ Repoprt: ” は、最終的な CSV ファイルの上記赤枠部分の固定情報となります。

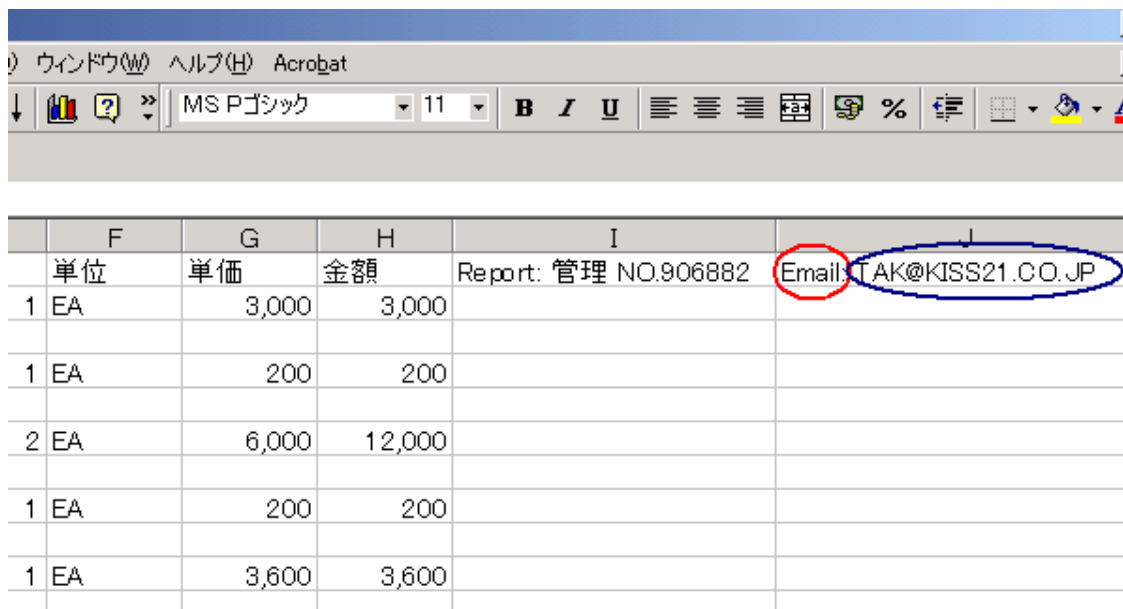
前述のヘダーの入力と同じ要領でタイトルを上書きします。

例: “ Report: ” → “ レポート名: ” とすることで、上記赤枠部分は「レポート名: 」となります。

青枠部分は、変数「ReportName」にセットされる値が表示されます。この変数には、フィールドマッパーを使用して AS/400 のスプールファイル上のデータをセットします。(後述)

() メールアドレス・ヘダーの変更

「Variable value is equal to:」ボックス内の「"Email: " + EmailAddress」の部分が修正可能です。



	F	G	H	I	J
	単位	単価	金額	Report: 管理 NO.906882	Email: TAK@KISS21.CO.JP
1	EA	3,000	3,000		
1	EA	200	200		
2	EA	6,000	12,000		
1	EA	200	200		
1	EA	3,600	3,600		

"Email: " は、最終的な CSV ファイルの上記赤枠部分の固定情報となります。

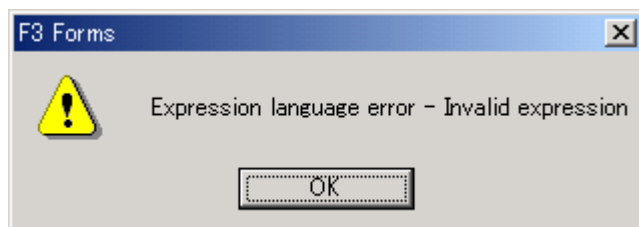
前述のヘダーの入力と同じ要領でタイトルを上書きします。

例: "Email: " → “メールアドレス: ” とすることで、上記赤枠部分は「メールアドレス: 」となります。

青枠部分は、変数「EmailAddress」にセットされる値が表示されます。この変数には、フィールドマッパーを使用して AS/400 のスプールファイル上のデータをセットします。(後述)

ここまでの作業が終了しましたら、**Headings+Email:(address)** 画面の「OK」ボタンを押してください。

下記エラーメッセージが表示されたら？



ヘダー情報の入力時に必要な “+” , “+c+” を削除してしまった可能性があります。

Headings+Email:(address) 画面の「Variable value is equal to:」ボックスを確認してください。

() 1 ページあたりの行数の変更

C S V ファイルのデフォルト行数は 5 5 に設定されてます。スプールファイル上のデータが 5 5 行より少ない場合には、残りの行数分ブランクが挿入されます。ブランクを挿入したくない場合は、ツールバーの「編集」→「変数の編集」で「Edit Variables for a form」の画面を表示します。「Variable Names」ボックスで **DetailLine** を選択し、画面上に表示された、「Repeating variable with maximum」の欄を適当な値に修正します。

Dialog box titled "Edit variables for a form".

New or Selected Variable:

Buttons:

Variable Names:

- Col_W
- Col_X
- Col_Y
- Col_Z
- DetailLine**
- EmailAddress
- Headings+Email:(address)
- Q
- ReportName

Data Types:

- ☐ Text
- ☐ Database Variable
- ☐ Number
- ☒ Calculation
- ☐ Date
- ☐ Summary
- ☐ Time
-

Data Length:

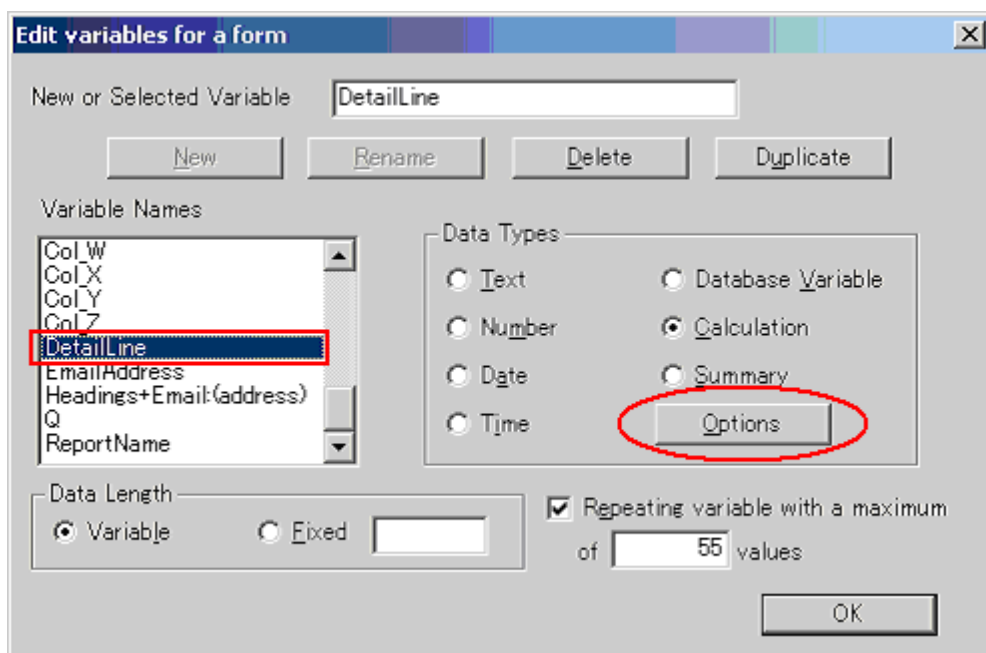
- ☒ Variable
- ☐ Fixed

☒ Repeating variable with a maximum of values

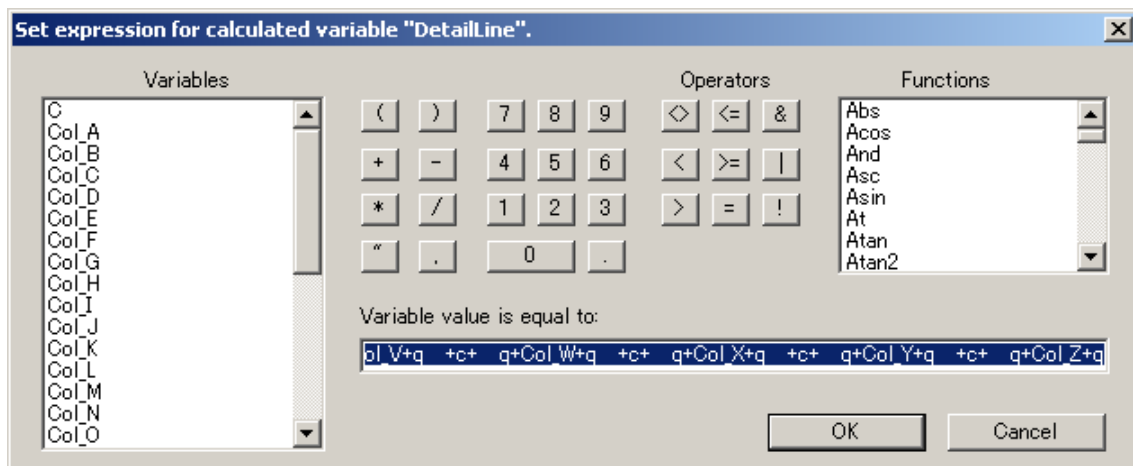
() 使用しない列の削除

フォームは「Col_A」～「Col_Z」の26列ありますので、使用する列が26列に満たない場合は、使用しない列を削除してください。「3. 制限事項」で述べられていますが、1行あたりの桁数 160の制約があります。使用しない列を残しておきますと1列につき「, ” ”」の文字列が使用しない列分だけ挿入されてしまいます。桁数制限を越えないために、使用しない列は削除するようにしてください。

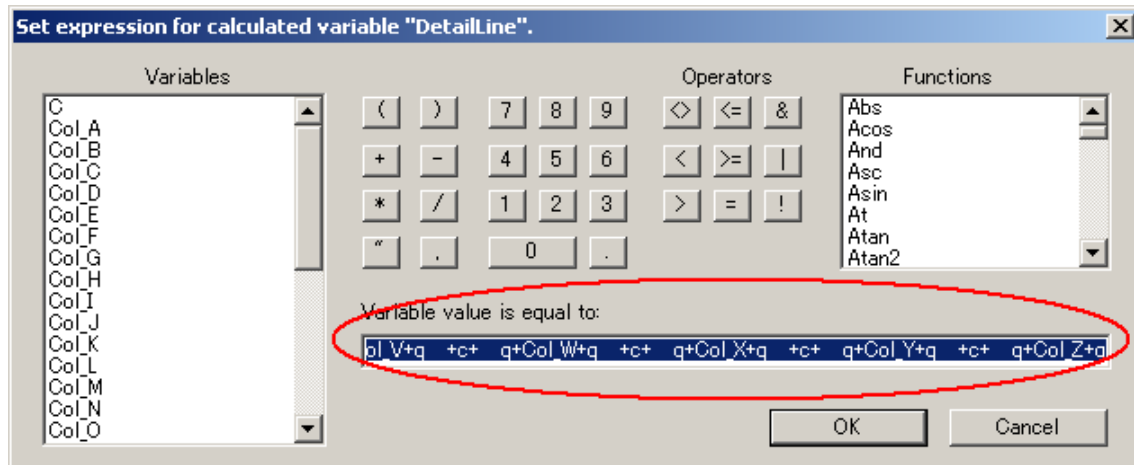
左側「Variable Names」より「DetailLine」を選択して、「Option」ボタンを押します。



「DetailLine」の画面が表示されます。



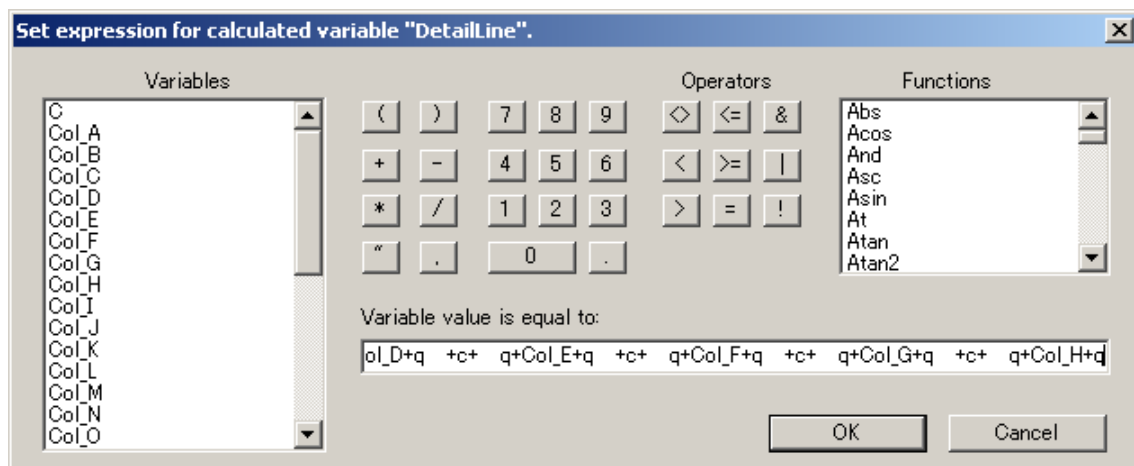
赤丸部分より使用しないセル名「Col_A～Col_z」を削除してください。



(例) 今回使用するセルが「Col_A～Col_H」とした場合、「Col_I～Col_Z」を削除します。
その場合、以下の部分を削除します。

「 +c+ q+Col_I+q +c+ q+Col_J+q +c+ q+Col_K+q +c+ q+Col_L+q +c+
q+Col_M+q +c+ q+Col_N+q +c+ q+Col_O+q +c+ q+Col_P+q +c+
q+Col_Q+q +c+ q+Col_R+q +c+ q+Col_S+q +c+ q+Col_T+q +c+
q+Col_U+q +c+ q+Col_V+q +c+ q+Col_W+q +c+ q+Col_X+q +c+
q+Col_Y+q +c+ q+Col_Z+q 」

「OK」ボタンを押して、「Edit variables for a form」画面に戻り「OK」ボタンを押します。



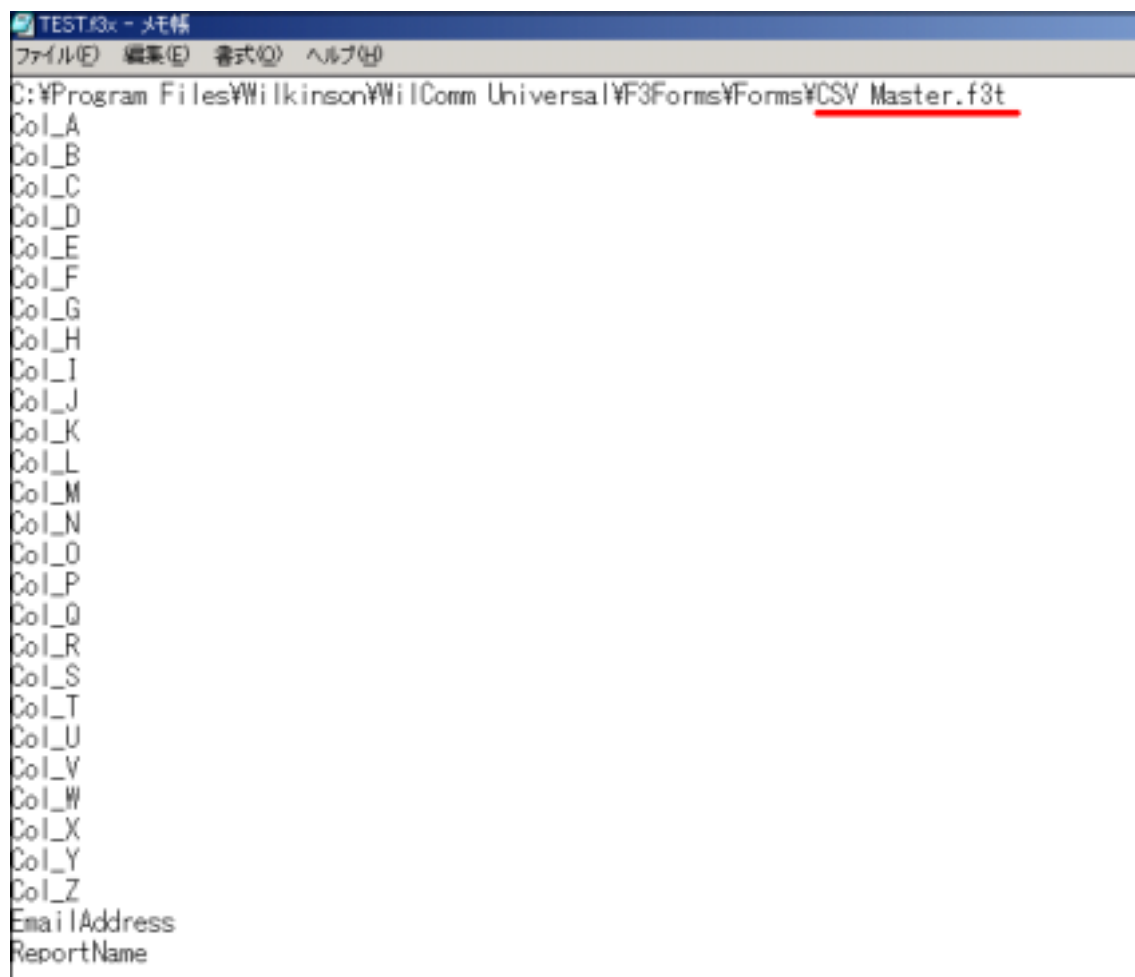
() 変数の抽出 (拡張子 = f3x)

通常のフォーム作成の場合には、ツールバーの「ファイル」→「変数の抽出」を選択して変数ファイルを作成しますが、CSV用のフォームの場合は行いません。既に用意された、CSV Master.f3X をテンプレートとして使用してください。エクスプローラ等でコピーして適当な名前に変更して使用します。(までの作業で作成したフォーム名称と同名にすることをお勧めします。) CSV Master.f3X のファイルの中には、作成元 (CSV Master.f3t) のフォーム名が固定情報として記録されています。「ノートパット」を使用してこの情報を新しいフォーム名に変更します。

CSV Master.f3X は、Forms Designer が C ドライブにインストールされている場合は、以下のフォルダにあります。

C:\Program Files\Wilkinson\WilComm Universal\F3Forms\Forms

コピーで作成した新しいファイルも同一フォルダに保存してください。



赤線部分を までの作業で作成したフォーム名称に修正してください。

48

105-0013										148815 61 9 9									
東京富士ビル1-11-7 ノースビル4F 株式会社 I. S. S. 高野 司										東京富士ビル1-11-7 ノースビル4F 株式会社 I. S. S. 高野 司									
01-5406-7683 TAMR133211.COL JP										管理 NO.908882									
1	FA001	ウィルコムネット	1単位	1	EA	3,000	3,000												
1	S05175285	ウィルコムASシステム	1単位	1	EA	200	200												
1	PC001	ウィルコムPCシステム	1単位	2	EA	6,000	12,000												
1	S05175285	導入サポート	1単位	1	EA	200	200												
1	CONSUL-ABC	ADOBE ADOBEAT Y&O	1単位	1	EA	3,800	3,800												
1	NOB-ACRON40	デザインソフトウェア	1単位	2	EA	95,000	190,000												
1	WDLFORM																		
1	7-45A22BL																		
										209,000									
										10,450									
										219,450									

メールアドレスを変数に割り当てるために、赤枠のようにメールアドレスが印字されている部分をマウスでドラッグします。

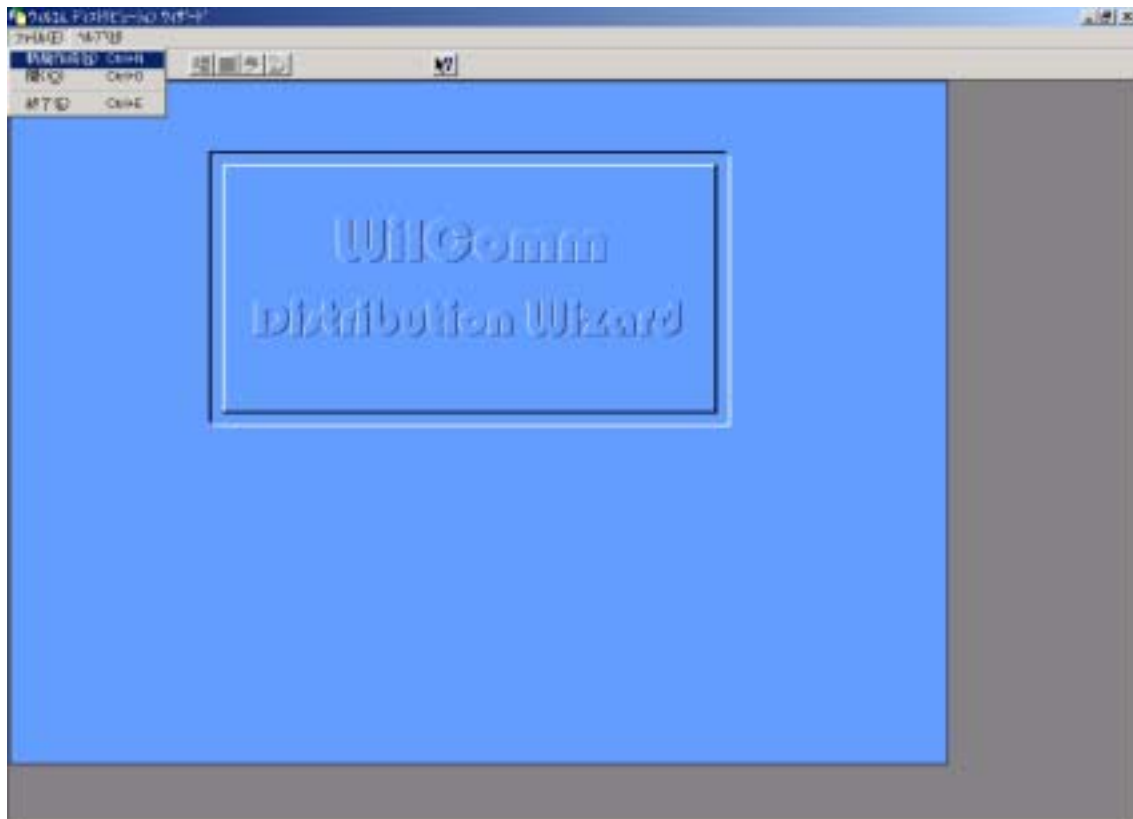
新規フィールドマップの設定

フィールド 行: 12 桁: 16 幅: 30 高さ: 1	変数リストから選択 EmailAddress マッピング方法 ☒ ダイレクトマッピング ☐ 条件付きマッピング 条件: 条件設定...
OK キャンセル	

「変数リストから選択」ボックスで「EmailAddress」を選択します。

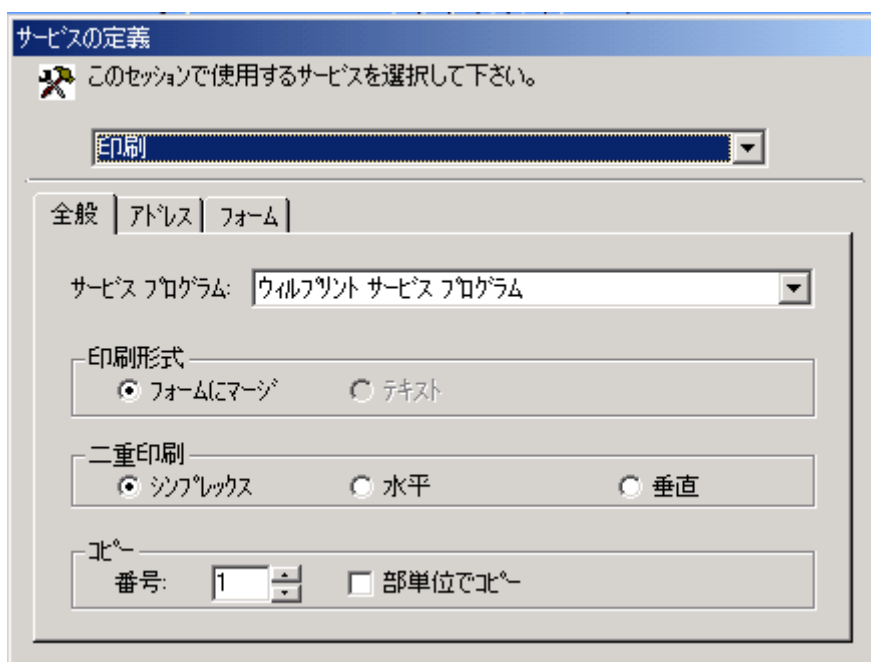
7. 「Distibutuinn Wizard」: Wilprint 用セクションの作成

ここでは、AS/400 から受け取ったスプール・ファイルを「Generic / Text Only」プリンタドライバと、これまでの作業で作成したフォーム及びフィールドマップ定義を使用して CSV ファイルを出力するセクションを作成します。

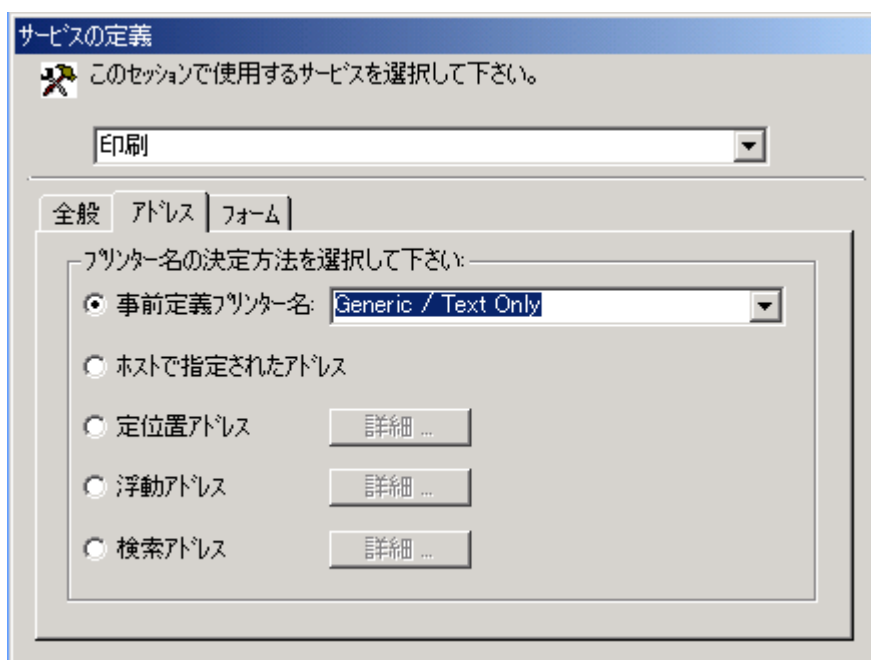


通常の Distribution Wizard セクションを作成する要領で作成します。

スプール属性による属性条件設定及び、スプールデータによるデータ条件設定を行い、サービス定義で「印刷」を選択します。



「アドレス」タブをクリックします。



「事前定義プリンター名」を選択します。

WindowsNT の場合 : Generic / Text Only Japanese

Windows2000 の場合 : Generic / Text Only

サービスの定義

 このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

印刷

全般 | アドレス | フォーム

フォーム名: TEST

フィールドマップ名: TEST

解像度: 高

オリエンテーション

 ☒ 縦(O)
☐ 横(A)

☐ データのみ

「フォーム」タブをクリックします。

「5．フォーム作成」で作成したフォーム及び、「6．フィールドマップ定義の作成」で作成したフィールドマップ名を指定します。

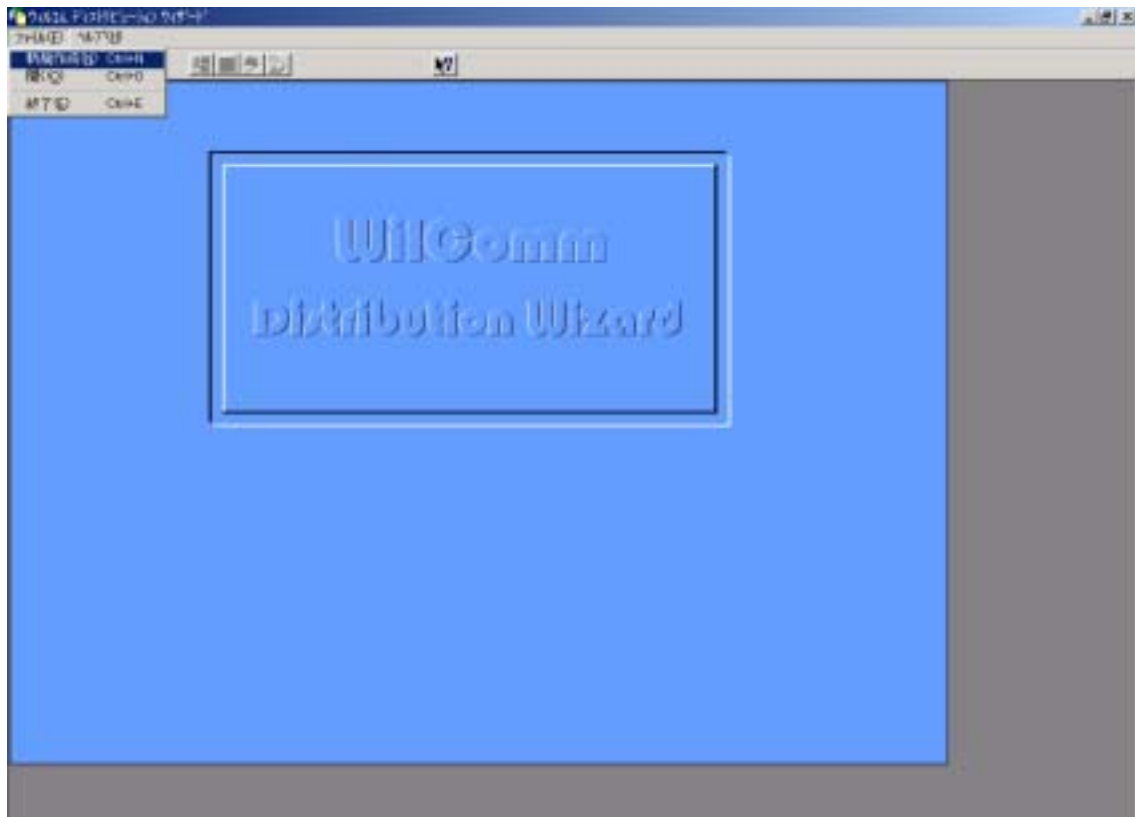
以上で Wilprint 用のセッションが作成されました。

このセッションによって、AS/400 のスプールは Generic / Text Only のレジストリで指定したフォルダに、CSV ファイル（この時点では拡張子 = .spl）として保存されます。

8.「Distibutuinn Wizard」：配信用セクションの作成

ここでは、「7.Distribution Wizard：Wilprint 用セクションの作成」によって処理された CSV ファイルを実際に配信するセクションを作成します。

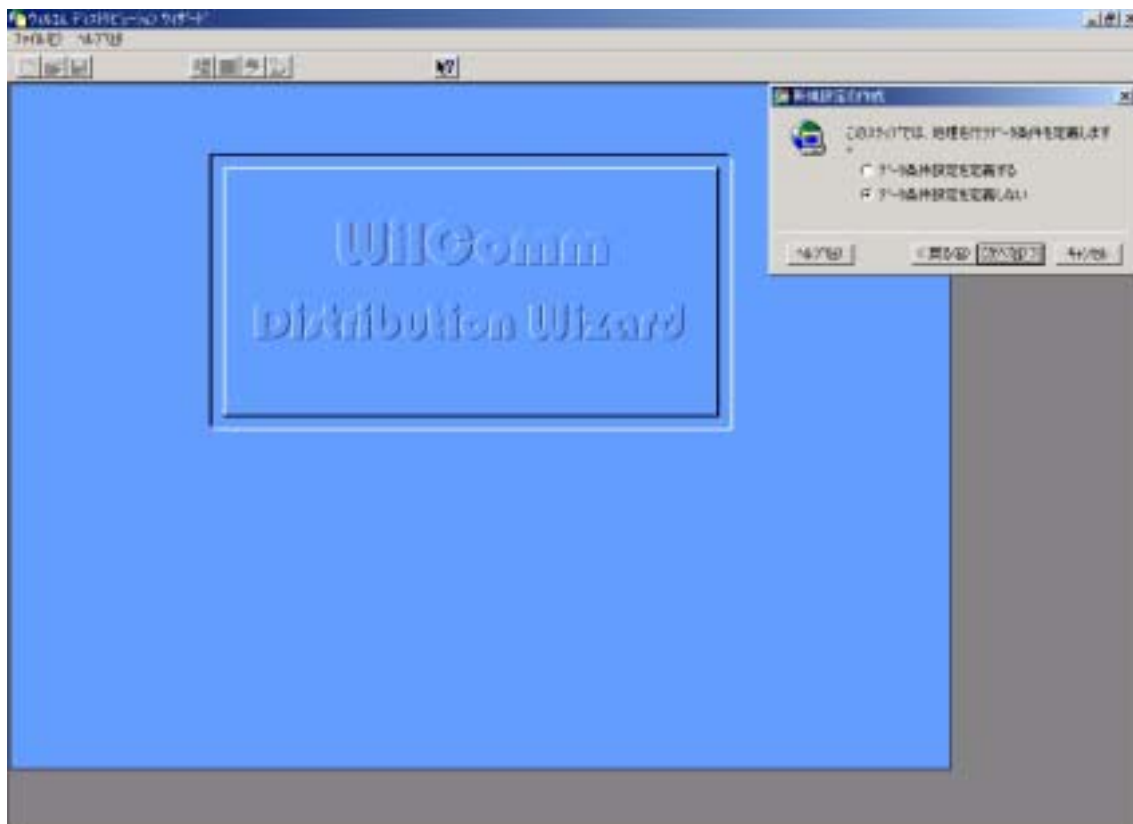
これは「4-5 WilcommConfig でピックアップ・グループを追加」で作成したピックアップ定義によって、Generic / Text Only プリンタ・ドライバが出力した「拡張子 = . s p l」という CSV ファイルがピックアップされますので、それを配信する定義です。



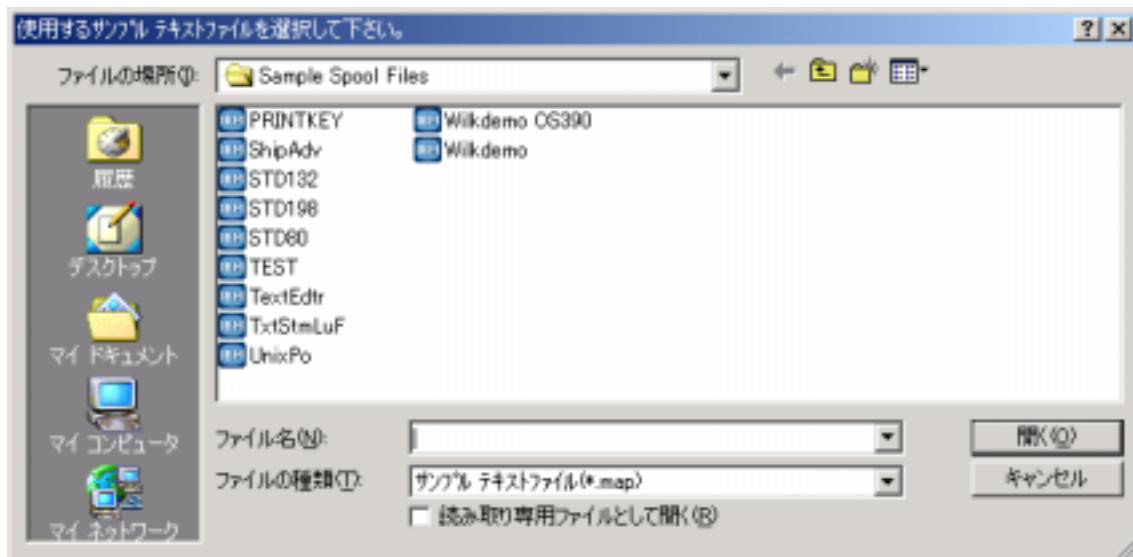
通常の Distribution Wizard セクションを作成する要領で作成します。

条件設定で、スプール属性による属性条件設定はできません。ここで対象になっているデータはスプール・ファイルではないためです。データ条件設定にて識別を行います。CSV ファイルを読み込んでいますから、その中にある識別可能な文字を検索させる定義を作成します。

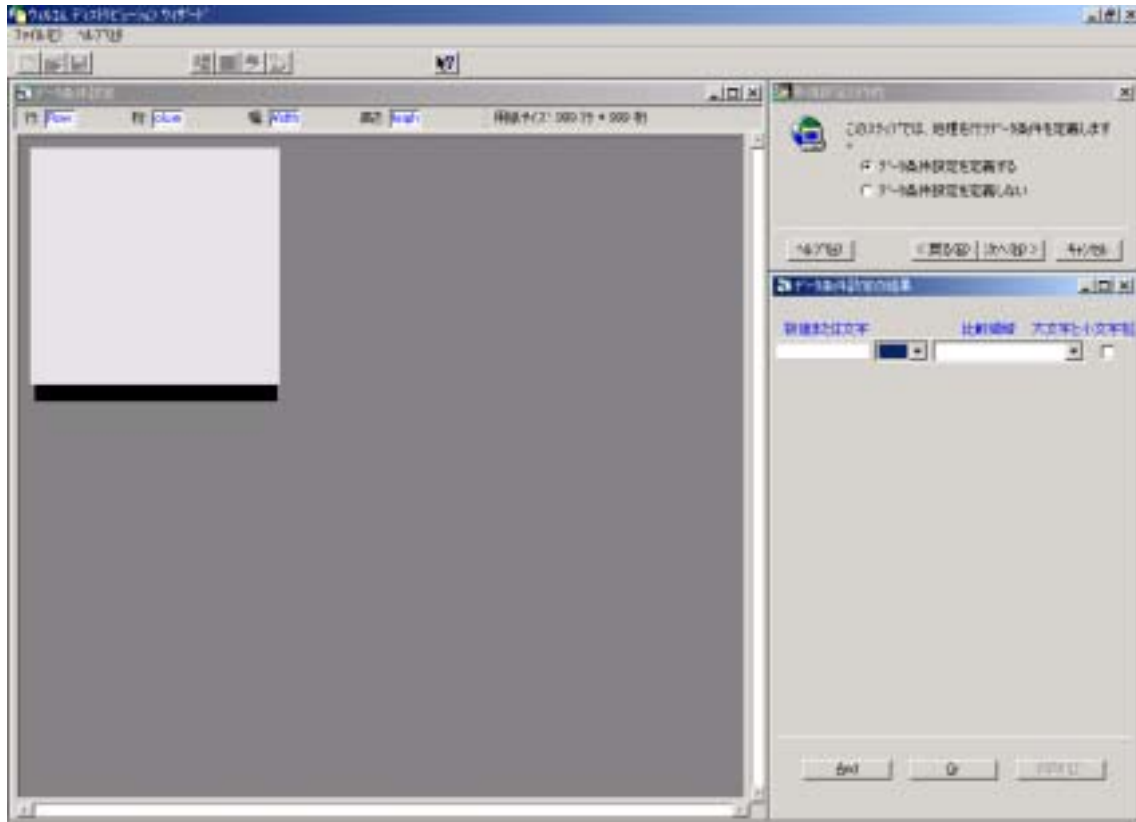
「属性条件設定」を「次へ」ボタンでスキップして以下の画面まで進んでください。



「データ条件設定を定義する」にチェックしてください。

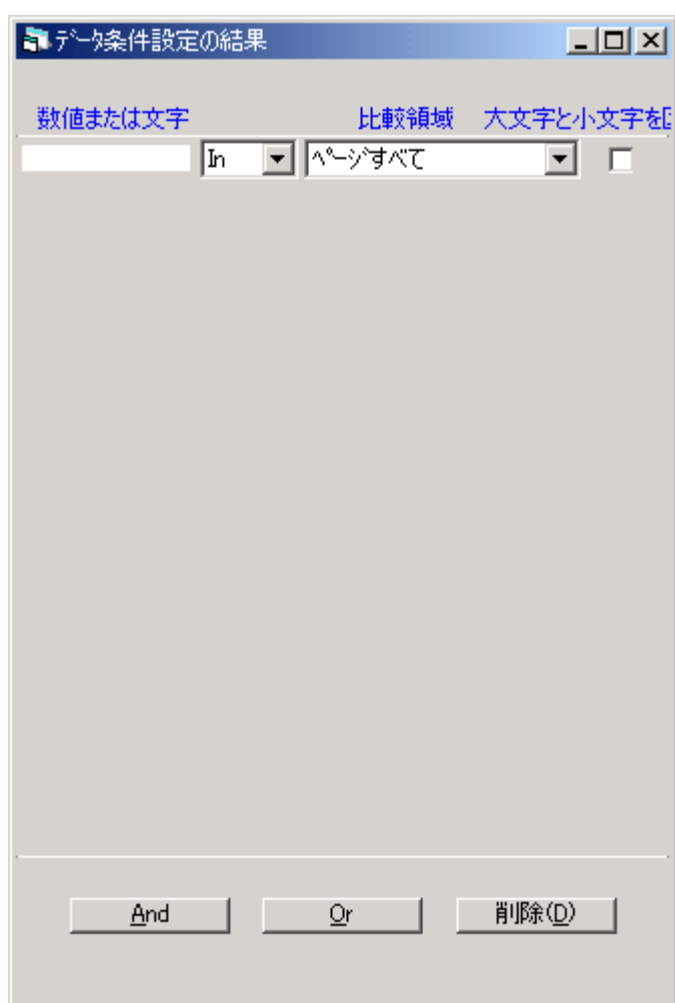


サンプル・スプール・ファイルを選択するように求められますが、ありませんので「キャンセル」ボタンを押してください。



サンプル・スプール・ファイルが選択されていない「データ条件設定」の画面が表示されます。

「6. フィールドマップ定義の作成」にて選択した部分が、ここで条件設定の対象となる文字です。よって、フォームの変数 = ReportName にセットした値を検索さるようにするのが良いでしょう。



「数値または文字」部に ReportName にセットした値を入力します。

「比較条件 = In」、「比較領域 = ページすべて」を選択してください。

これで条件設定ができましたので、「次へ」ボタンで「サービス定義」に進んでください。

サービスの定義

 このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

Eメール

全般 | メール メッセージ | アドレス | フォーム

Eメールの形式

- ☐ 送信ファイルをメール本文として送信
- ☐ 送信ファイルをテキストファイルの添付として送信
- ☐ 送信ファイルをウィルフォームズでマージして、PDFの添付ファイルとして送信
- ☐ ホストスクリプト ファイルをPDFに変換し、PDFの添付ファイルとして送信
- ☒ 送信ファイルをCSVファイルの添付として送信

サービス プログラム: ウィルメール サービス プログラム

サービスはEメールを選択して、「Eメールの形式」で「送信ファイルをCSVファイルの添付として送信」を選択してください。

サービスの定義

 このセッションで使用するサービスを選択して下さい。

Eメール

全般 | メール メッセージ | アドレス | フォーム

アドレスの決定方法を選択して下さい:

- ☐ ホストで指定されたアドレス
- ☐ 定位置アドレス
- ☒ 浮動アドレス
- ☐ 検索アドレス

「アドレス」タブをクリックします。

アドレスは、フォームの変数 = EmailAddress にセットした値を使用します。

「浮動アドレス」を選択して、「詳細」ボタンを押します。

浮動アドレス

以下の文字列が見つかった場所を基準とする:

☐ 大文字と小文字を区別

アドレスが抽出される領域

水平位置

☐ 文字列の左側

☒ 文字列の右側

距離:

AND

垂直位置

☐ 文字列の上側

☒ 文字列の下側

距離:

アドレスの幅

幅:

☐ 最初のページから取得したアドレスをすべてのページに適用する。

OK キャンセル

浮動アドレスの設定画面が表示されます。

「5. フォーム作成」の 43 頁での作業が重要になります。

メール・アドレスの前には、固定情報がありました。デフォルトでは「Email: 」という固定情報の後に EmailAddress という変数が続いていました。

この固定情報に指定した文字を検索して、その後に続く文字列をメール・アドレスとして使用するように設定します。

ここでは、固定情報を「Email: 」のまま変更しなかった場合で解説しています。

最上部のボックスに検索したい文字を入力します。ここでは「Email:」を検索することになります。

実際のアドレスが「Email:」という文字列と、どのような位置関係にあるかを指定します。

「水平位置」で文字列の右側 7 バイトの位置にあることを示しています。

「Email:」の「E」の左側にカーソルを合わせて、右に 1 バイトずつカウントしながらスライドさせた場合、7 バイト目が実際のメールアドレス（変数 = EmailAddress）の開始位置であることを示しています。

「垂直位置」は同一行にありますので、「文字列の上側」「文字列の下側」のどちらを選択しても「距離 = 0」であることを示しています。

「アドレスの幅」は、実際の幅を指定してください。

以上で 配信用のセクションが作成されました。

このセクションによって、CSV ファイルが、メールで配信されます。

設定作業はすべて終了しました。

PC Server の Wilcomm Server / WilPrint / WilMail を起動して、テストをしてみましょう。

9. 動作確認

「7. 「Distribution Wizard」: WilPrint 用セクションの作成」で作成したセクションの条件に合うようにスプールを用意して Wilcomm OUTQ に投入します。

(1) PC Server 側では、WilPrint 用セクションにて処理されると以下のウィンドウが表示されます。



これは、Generic / Text Only プリンタ・ドライバが起動したことを意味しています。

このウィンドウは、このまま放置してください。

ここでファイル名を指定しなくても、実際にはレジストリで指定したフォルダにファイルは作成されています。

現状では、このウィンドウを非表示にすることはできません。

(2) 「8. 「Distribution Wizard」: 配信用セクションの作成」で作成したセクションにてメール配信が実行されます。

「4-5 Wilcomm Config でピックアップグループを追加」で追加した定義により、(1) で出力されたファイルをピックアップして、配信用セクションで実際にメール配信されます。

< 配信されない場合のチェック・ポイント >

・「ファイルへ出力」ウィンドウが表示されない場合は、WilPrint 用セクションが機能していません。AS/400 のスプール属性設定・データ設定、Distribution Wizard でのセクションの並び位置を確認してください。

・「ファイルへ出力」ウィンドウは表示されるがメール配信されない場合は、Generic / Text Only のレジストリで指定したパスと Wilcomm Config で追加したピックアップグループのパスが等しいか確認してください。

等しくなかった場合、レジストリで指定したパスのフォルダにはファイルが存在するはずですので、ピックアップグループ修正後 Wilcomm Server を再起動すると処理が実行されてメール配信されます。

また、Distribution Wizard 配信用セクションのデータ設定も確認してください。

10. メール添付される CSV ファイル名称について

「9.動作確認」にて配信された CSV ファイルの名称は、「99999.spl.csv」のような名称になってるはずですが。

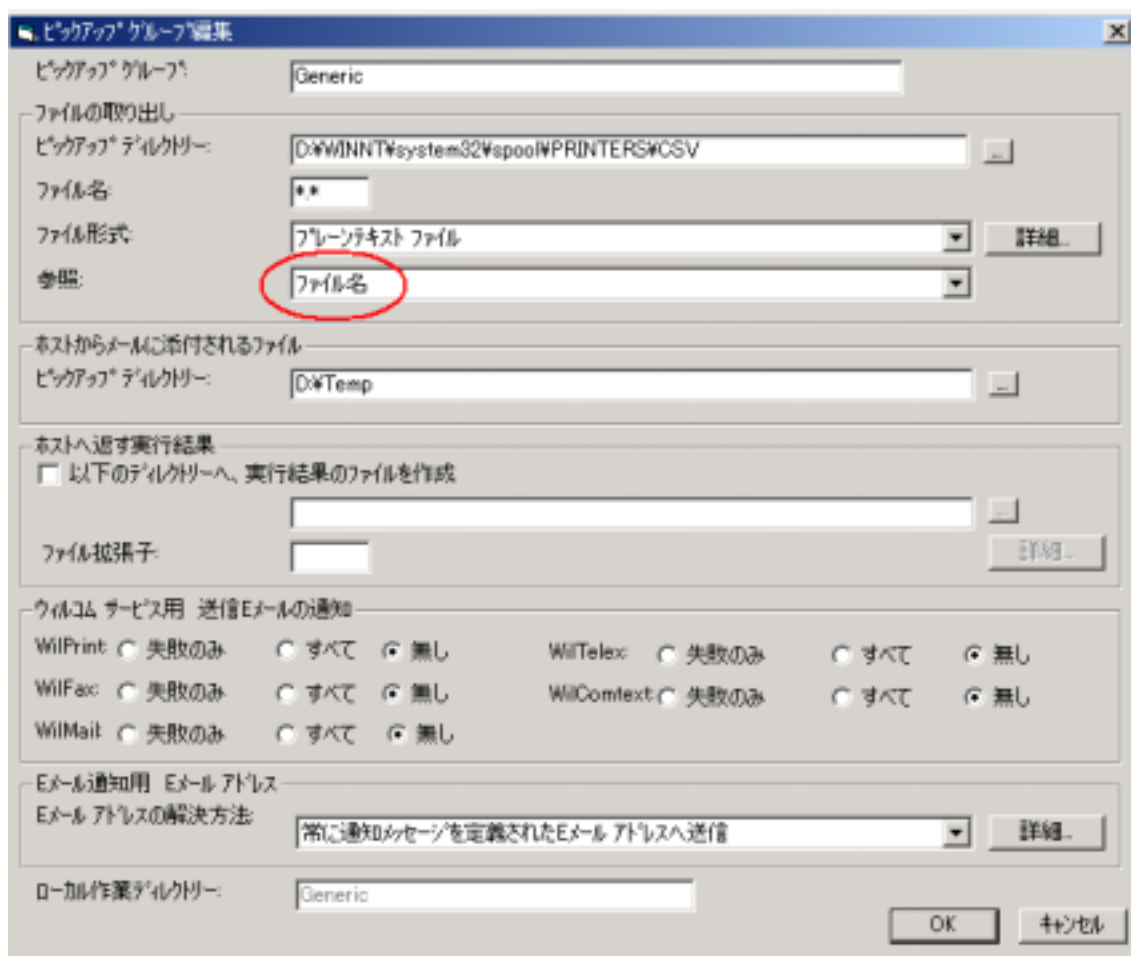
99999.spl の部分は、Distribution Wizard の WilPrint 用セクションで出力されたファイル名称です。そのファイル名称に更に拡張子 = .csv を付けて名称が確定しています。

99999.spl を CSV ファイルの名称に使用したのは、「4-5 Wilcomm Config でピックアップグループを追加」で設定した内容に依存しています。

更に、拡張子 = .csv を付加しているのは、Distribution Wizard 配信用セクションで、「送信ファイルを CSV ファイルの添付として送信」をチェックしていることに依存しています。

このままでは、送られた CSV ファイルがどのようなファイルなのかは、名称から判断ができません。99999.spl の部分をもう少しわかりやすい名称にする方法を以下に解説します。

「4-5 Wilcomm Config でピックアップグループを追加」35 頁～36 頁の解説の中で、「ファイル取り出し」の「参照」項目を確認してください。

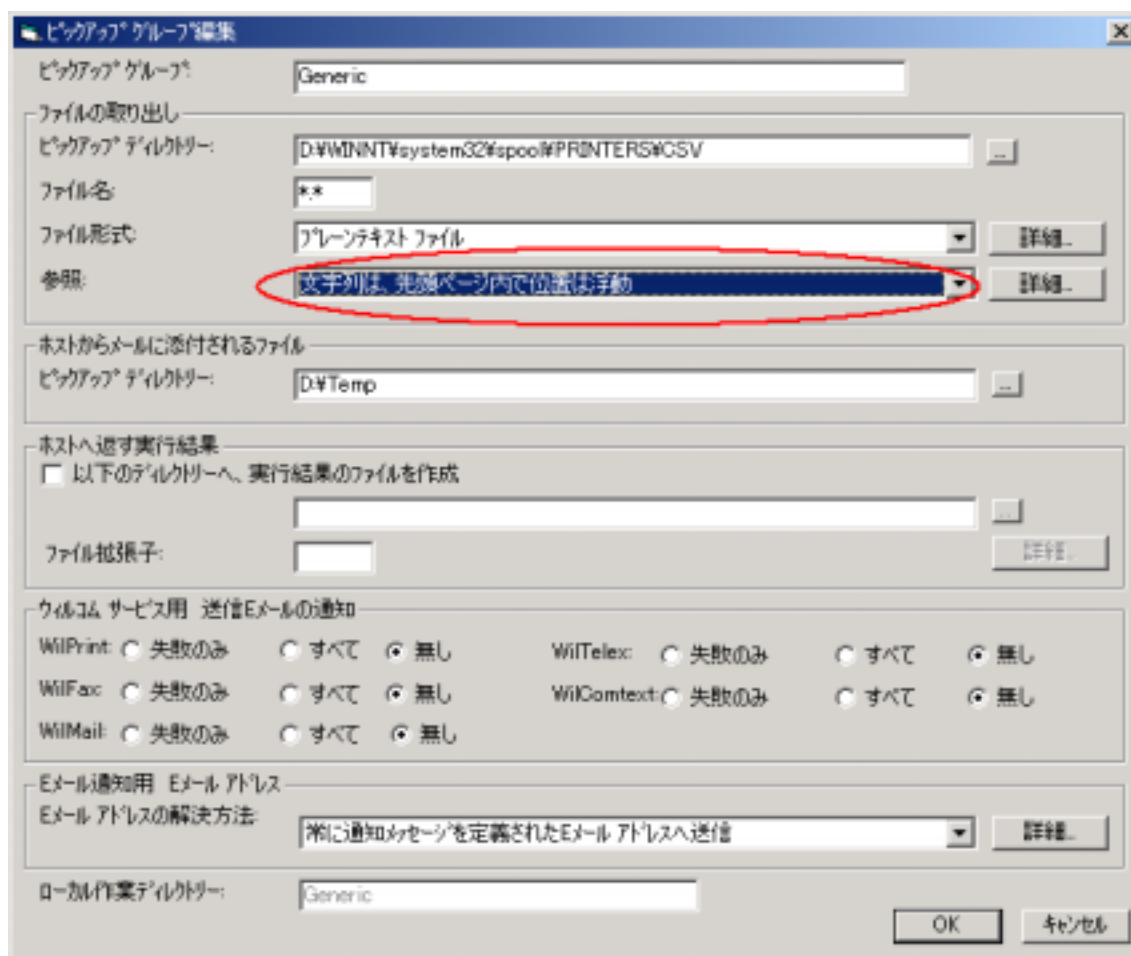


「参照」 = 「ファイル名」となっているはずですが。

この設定が、99999.spf というファイル名称をそのままメール配信の際に添付ファイル名称としているのです。

CSV ファイルのデータの一部を取り出して、それを添付ファイル名称にする方法について解説します。

CSV ファイルを出力するのに使用したフォームには、ReportName という変数がありました。その値を添付ファイルの名称とすればわかりやすいでしょう。



「参照」 = 「文字列は、先頭ページ内で位置は浮動」を選択します。

CSV ファイルのデータを検索することを意味します。

「詳細」ボタンを押します。

以下の文字列が見つかった領域を使用:

参照文字列を取得する領域

Horizontal Position

☐ 文字列の左側

☒ 文字列の右側

距離: 1

AND

Vertical Position

☐ 文字列の上側

☒ 文字列の下側

距離: 1

And the width of this reference area is

幅: 10

OK

Cancel

「浮動参照文字列」の設定画面が表示されます。

これは、「8.Distribution Wizard 配信用セクションの作成」の 58 頁で解説している「浮動アドレス」の設定画面と同要領で設定します。

「5. フォーム作成」の 42 頁で、ReportName 変数の前にある固定文字をデフォルトの "Report: " ままフォーム作成していることを前提に解説します。

ReportName 変数にセットされた値を CSV ファイル内に検索するには、"Report: " の固定文字を検索して、その位置関係から探すことになります。

以下の文字列が見つかった領域を使用:

Report:

参照文字列を取得する領域

Horizontal Position

☐ 文字列の左側

☒ 文字列の右側

距離: 8

AND

Vertical Position

☐ 文字列の上側

☒ 文字列の下側

距離: 0

And the width of this reference area is

幅: 14

OK

Cancel

「水平位置」で文字列の右側 8 バイトの位置にあることを示しています。

「Report: 」の "R" の左側にカーソルを合わせて、右に 1 バイトずつカウントしながらスライドさせた場合、8 バイト目が実際のレポート名称（変数 = ReprtName）の開始位置であることを示しています。

「垂直位置」は同一行にありますので、「文字列の上側」「文字列の下側」のどちらを選択しても「距離 = 0」であることを示しています。

「幅」は、実際の幅を指定してください。

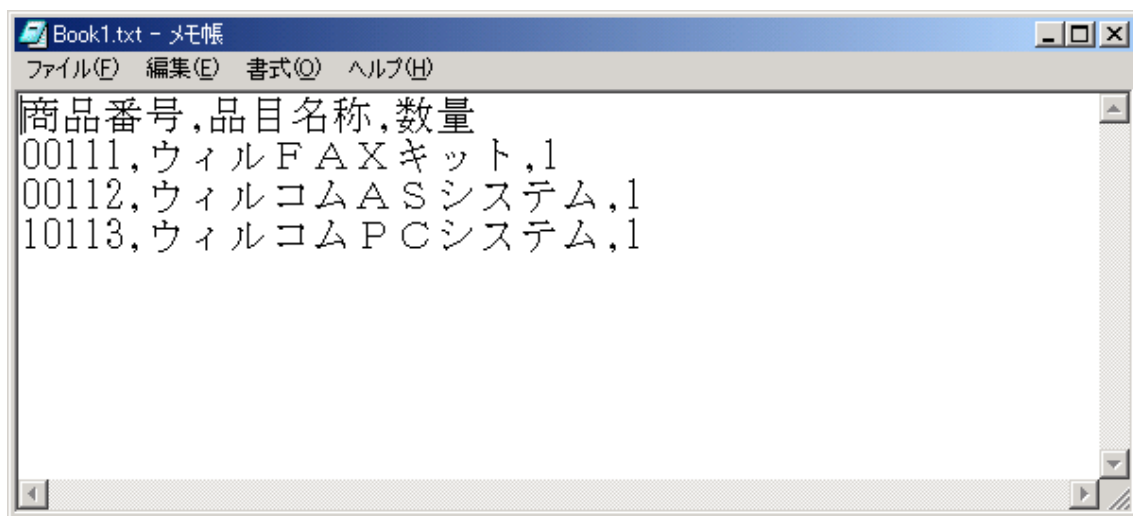
以上の設定で、メール配信される CSV ファイル名称は「レポート名称」となります。

11.補足

CSV ファイルでの配信は、受信者が EXCEL でファイルを開けるという手軽さが大きなメリットです。それは拡張子 = csv が Windows 上では EXCEL で起動するよにリンク設定がされているからです。

しかし、その利便性が逆にユーザーにとっては困る場合がありますので、以下にご紹介いたします。

Wilcomm で配信した CSV ファイル（カンマ付テキスト・ファイル）が以下のような内容だった場合。



このファイルが拡張子 = csv で配信され、受信者がこのファイルをダブルクリックで開きます。自動的に EXCEL が起動して、次のように表示されます。

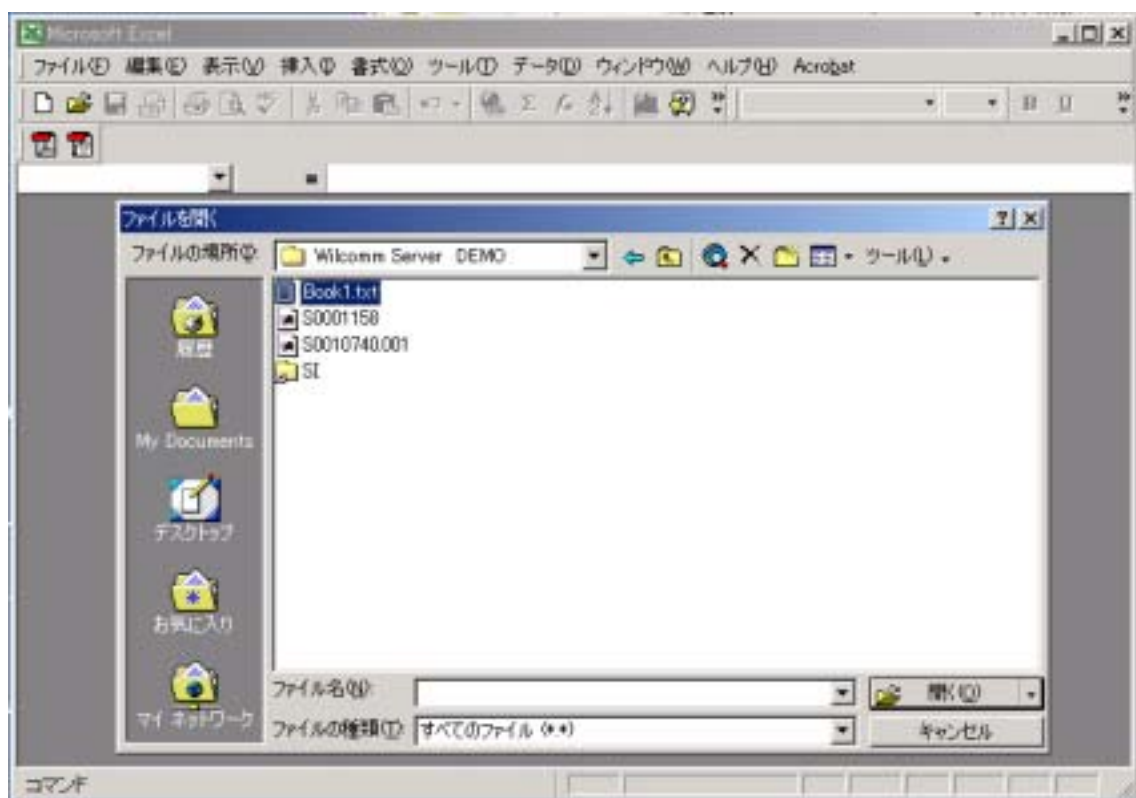
	A	B	C	D	E	F
1	商品番号	品目名称	数量			
2	111	ウィルFAXキット	1			
3	112	ウィルコムASシステム	1			
4	10113	ウィルコムPCシステム	1			
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						

商品番号の前ゼロが表示されません。

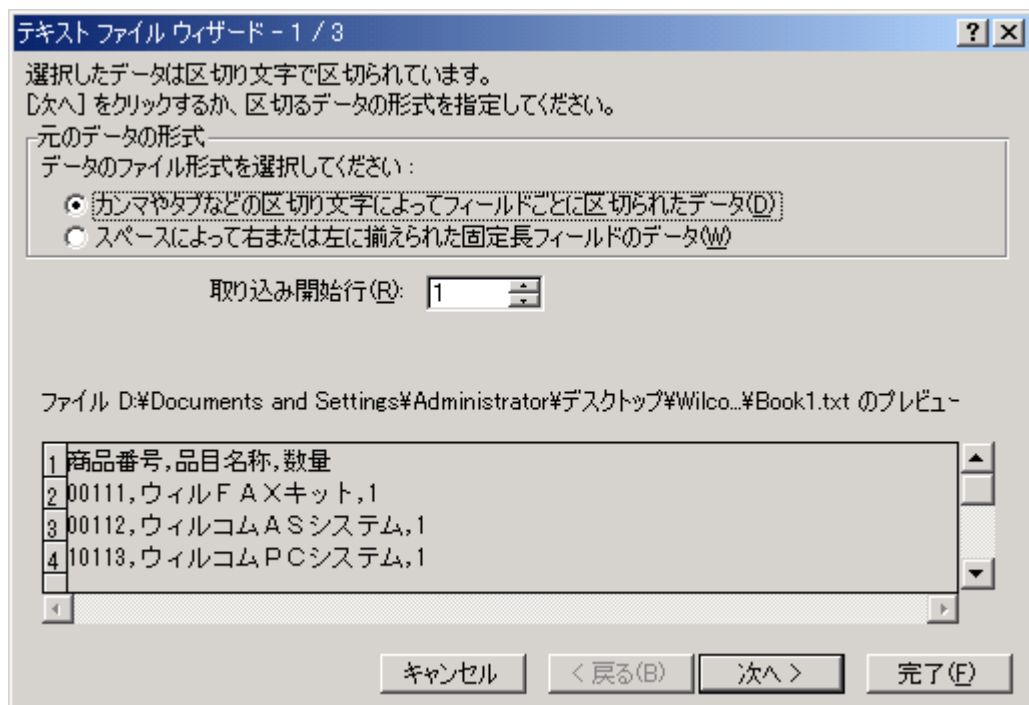
これは、EXCEL が自動的にセル値を数字属性と判断しているためです。

拡張子 = csv であるための問題です。

このファイルの拡張子 = txt であれば、EXCEL は「ファイル」→「開く」でファイルを開く際にウィザードが起動して、列の属性を指定することができます。



拡張子 = txt のファイルを指定します。



テキストファイルウィザードが起動します。

「次へ」ボタンを押します。

テキスト ファイル ウィザード - 2 / 3

フィールドの区切り文字を指定してください。[データのプレビュー] ボックスには区切り位置が表示されます。

区切り文字

☒ タブ(T) ☐ セミコロン(M) ☒ カンマ(C) 文字列の引用符(Q): "

☐ スペース(S) ☐ その他(Q):

☐ 連続した区切り文字は 1 文字として扱う(R)

データのプレビュー

商品番号	品目名称	数量
00111	ウィル F A Xキット	1
00112	ウィルコム A S システム	1
10113	ウィルコム P C システム	1

キャンセル < 戻る(B) 次へ > 完了(F)

「区切り文字」の「カンマ」にチェックします。

「次へ」ボタンを押します。

テキスト ファイル ウィザード - 3 / 3

区切ったあとの列のデータ形式を選択してください。

[G/標準] を選択すると、数字は数値に、日付は日付形式の値に、その他の値は文字列に変換されます。

詳細(A)...

列のデータ形式

☐ G/標準(G) ☒ 文字列(T) ☐ 日付(D): YMD ☐ 削除する(Q)

データのプレビュー

文字列	G/標準	G/標準
商品番号	品目名称	数量
00111	ウィル F A Xキット	1
00112	ウィルコム A S システム	1
10113	ウィルコム P C システム	1

キャンセル < 戻る(B) 次へ > 完了(F)

「データのプレビュー」ボックスで対象の列を選択し、「列のデータ形式」で「文字列」にチェックして、「完了」ボタンを押します。

Microsoft Excel - Book1.txt

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) データ(D) ウィンドウ(W) ヘルプ(H) Acrobat

MS Pゴシック

	A	B	C	D	E	F
1	商品番号	品目名称	数量			
2	00111	ウィルFAXキット	1			
3	00112	ウィルコムASシステム	1			
4	10113	ウィルコムPCシステム	1			
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

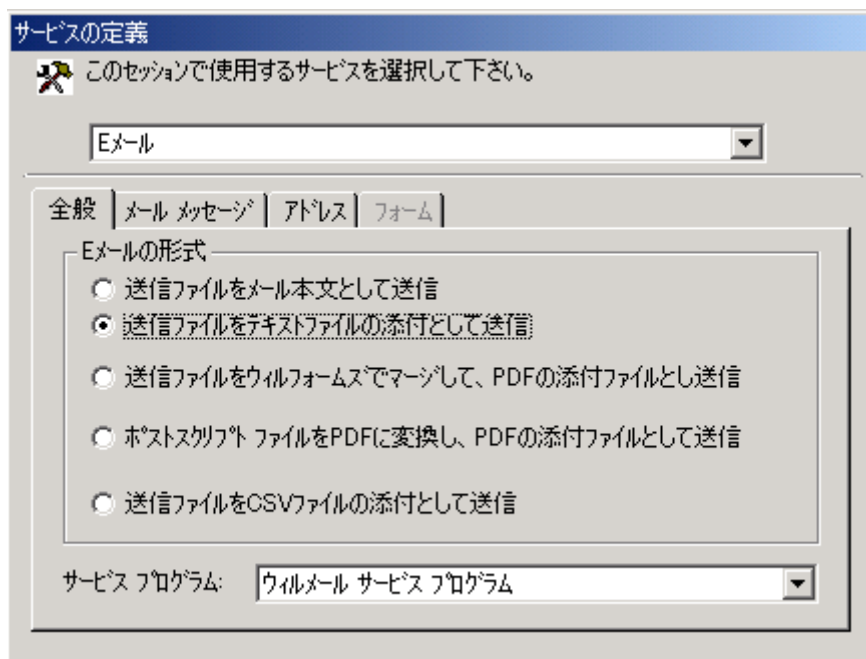
Book1

コマンド

列の属性が文字列になったことで、前ゼロを表示されるようになります。

以上のことから、受信者の利便性を考慮した場合、拡張子 = txt で配信したほうが良い場合があることが、ご理解いただけたと思います。

その場合は、「8.「Distributin Wizard」: 配信用セクションの作成」で作成したセクションの「サービスの定義」を修正してください。



「Eメールの形式」を「送信ファイルをテキストファイルの添付として送信」にチェックするようにしてください。

これで CSV ファイルは拡張子 = txt で配信されるようになります。

ユーザー教育を考慮した上で、送信する添付ファイルを拡張子 = csv にするか、txt にするかを判断するようにしてください。